

## 会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回天草市総合政策審議会
開催日時	令和3年7月30日(金) 9:30~17:20
開催場所	天草市役所 3階 第1委員会室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、江良委員、小川委員、木村委員 黒沢委員、澤田委員、西村委員、森本委員、山下委員
欠席者氏名	小田委員
会議次第	<b>【委嘱状交付】</b> 1 開 会 2 市長あいさつ 3 役員選任 4 会長あいさつ 5 報 告 (1) 天草市過疎地域持続的発展計画(素案)について 6 議 題 (1) 地方創生推進交付金等の事業実施に係る検証について (2) 第2次天草市総合計画の推進について 7 その他 8 閉 会
審 議 内 容	
<p>議題(1) 地方創生関連交付金事業の実施に係る効果検証について</p> <p>○事務局より説明。</p> <p>  <b>【地方創生推進交付金】</b></p> <p>  《稼ぐ力で自立するハイブリッドビジネスサポートシステム構築》</p> <p>○事務局より説明。</p> <p>  (委員)</p> <p>  本事業が、地方創生に効果として、KPIの二つ目に売上高が61,947,000円で目標値を上回っているが、事業費として52,182,000円投下して、この売上を作ることが、効果があったのかというか、最初の目標設定がどのように設定されたのか疑問です。5,000万円投下して、売上として1,000万のプラスが得られたのかもしれないのですが、これは売上なので、販管費などを差し引いたら投資した意味があるのか疑問点としてありました。このアマビズが事業をする前、天草物産公社を通じた売上高が関わる前の売り上げがどれぐらいで、関わった後にどれぐらい売り上げが上がったのかを目標設定の方がよかったのかなと感じたところです。その設定の仕方を伺えればと思います。</p> <p>  (事務局)</p> <p>  この計画策定時の公社の売上高が約23,000,000円となっております。昨年度が84,947,000円の売り上げになっておりまして、当初の目標に対して61,947,000円の</p>	

増額となっております。そういった成果として記載をさせて頂いております。

(委員)

取引業者数が、KPIの目標が62で実績値が52社になっていて、未達の要因がコロナ禍だったからってという要因が結構大きかったとは思ったのですが、未達だけ特に見直しをせずに事業を継続していいのと感じました。コロナ禍で下がり、もしかしたら今後も下がる可能性があって、それに対して同じ計画で進めていいのかなと思ったので、どう考えてこの事業を継続するにされたのかをお聞きしたいです。

(事務局)

たしかにコロナ禍の中で、ほとんど公社として活動ができなかったということで、この数字になっております。このままというわけではなく、色々な都市部の飲食店さんを紹介いただいたほか、商談会にも開催参加しています。そのような中で様々な業者さんも、特に都市部にいらっしゃる方とご紹介いただいた方をピンポイントと言うか、特に絞ってそういった方々と面談をし、なんとか取引先はつなげていきたいというのが状況であります。

(委員)

自分たちも天草管内というか、関西から東のほうの外貨をとって仕事をしているのですが、今回のコロナ禍で大変厳しい状況になったのは多分どの業界もあり得るところです。その中でもやっぱり需要が増えて、売上高が高くなっている分野があると思います。私も飲食店、そのメーカーさんの先が対象で、例年の40%ぐらいの売り上げで、そこの先の飲食店さんは、大なり小なりいろいろありますけど70%であったり20%であったりで、そこをターゲットにしておくとの物量っていうのがそのまま売価に反映せず、やっぱり需要が減っている分、供給が過多になるのでだいたい下がります。このため、自社としてはやっぱりそこを転換して、その中で、上がっている分野で、逆に巣ごもり需要というのが増しました。たとえば、エキス関係です。ご自宅でやっぱりいいものを食べたいとか、あとは人に会えないから贈答で何かお届けしたいとか、そっち側のです。単価面や客層のターゲットが変わってもきています。会社は、やっぱり自分でお金っていうのを稼がないといけないので、潰れられない中で、外部の環境というのは、その社会の問題であり、コロナの問題があるので、内部的な環境とか、その考えへのベクトルっていう情報を素早くキャッチして、良い方向良い方向に、毎日毎日変わることをやっぱり考えていかないといけないと思っています。すごくいいこと取り組まれており、新規事業として、それが継続して売上につながることで、その中で、やっぱり潤うように、色々なアドバイスがあり、色々なマッチングができたらと感じました。

(会長)

いただいたご助言はぜひ意見として、書いていただきたいと思います。

私のほうでまとめさせて頂きます。今のような観点を、いくつかうまく説明していただくといいかなと思います。効果的だったと前提での議論で進んでいると思いますが、こういう観点が改善が必要、次の展開を期待したいなどご指摘いただいたという事で現時点はよろしいでしょうか。

(委員)

ハイブリッドビジネスサポートシステム。説明を聞いてとてもいい取り組みだと思えます。今の KPI に表示されている数字だけではなく、天草の色々な物産、天草ならではの商品を都会の方は待っておられると思えます。そういった方々を起点として、今度はこっちの目線じゃなく、向こう側の目線で、例えば、食べると売るのが繋がるとか、そういったことで島外に天草の品物を増やしていくような取り組みを拡大していけば、もっと天草市の魅力が出てくるのではないかと思います。確かに 62 から 52 という実績では、あれっというところもありますが、やっぱりコロナ禍の中だからこそですね、待っておられる方もいると思えます。多少は人流も減っていて厳しい面は確かにあると思えます。しかし、今後ワクチン接種などでいろんなところが改善すれば目が九州に、その中でも特に天草に向けてきて、この素晴らしい自然から生まれた天草市のブランドが日本全国での注目度も高まるし、将来的には一回行ってみたい、天草に移り住みたい、そして、天草で子育てをしたい。そういった、発展のあるような取り組みにならないかと思っております。

一事業だけでなく、他の事業にも複合的で絡まっているという事。その辺りを大事にさせていただきたいと指摘したいと思えます。ぜひ、自信持って継続してもらえばと思えます。

(会長)

各委員から頂いたあたりに関して、何か発言がありますか、事務局のほうでお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。参考までに、当初、公社が始まりました時は、27 社の取引でスタートしています。それが令和元年度では 91 社まで増えておりましたが、昨年は 52 社ということで、なんとか令和元年度の取引先までは、戻せればと思っております。

(委員)

私、最初の始まった当初から参加させていただいております。やはり天草といえば、海産物など食べ物がやっぱりすごく注目されていますが、例えば、天草の椿油とか、私も香りを作っていますが、そういったものを一緒にしてしまうと、やはりどうしても潰されてしまって、食べ物ばかり注目されていくことがすごく多かったところです。そこを、少し分けて頂いて、物産公社さんとアマビズさんが、今ではそれぞれが何をしているかっていうのがわかってきたところです。最初の時は、まず物産公社さんが何かということから全然分からず、いろんな業者さんとお話ししても、ちょっとなんとなく分からないということがすごく多かったです。しかし、この連携で、アマビズさんと物産公社さんが本当にサポートされていて、すごくいつも助かっているところです。もう少し明確なものがあるといいなと思えます。ちょっと分かりづらいことをお伝えしたいと思っておりました。

(会長)

今、ご指摘いただいたことは、改善事項として十分に記載できると思えます。例え

ば、先ほどの商品の工夫ですよ。贈り物へのアプローチは今だからこそ出来る事もあるでしょうし、訪問につなげていたこと、さらにハイブリッドですから連携が重要だと言いつつ、それぞれの立ち位置はどうなのかがちょっと分かりにくいってこともあるかと思います。そういった観点を加えさせて頂き、記載させていただきまして、効果的であったということで外部委員としては、まとめてさせていただきます。

#### 《人呼び込むマグネットシティ構想》

##### ○事務局より説明。

(会長)

マグネットシティの1つ目、二地域就労促進事業についてです。こちらに関してご意見いかがでしょうか。

(委員)

このマグネットシティ構想で、京都芸術大学との取り組みはとてもいい取り組みになると思います。天草市出身の小山薫堂さんの関係。確か、副学長ですよ。小山さんという素晴らしいコーディネーターで、天草が持っているポテンシャルであり、くまモンの生みの親、知名度、ネームバリューもあります。今後、改善の見直し方針が上がっていますが、一旦できたこの京都芸術大学とのつながりは、やっぱり大事にして欲しいなと思います。

それと検討事項になると思いますが、大分の別府に APU があります。立命館アジア太平洋大学。日本にある九州の外国と捉えて構わないと思います。おそらく世界から 80 ないしは 90 カ国からの学生たちが、大分の別府で学んでいます。そして、卒業後は国連職員や各国に帰って、日本との架け橋になります。もし、学ぶ環境が許されれば、天草市とのつながりですね。例えば大学生を何人か呼び、シンポジウムの開催や京都芸術大学の学生達とこの前作られた映画につなげるなど、そういった交流を進めるなど大学との関係も少しずつ広げていく。そういった考えも大事じゃないかという気もします。せっきく九州にある APU の持っている力を天草市に注入すれば、非常にこのマグネットシティ構想が少し膨らんでこないか個人的な意見に偏りすぎてちょっとこう判断がしかねると思いますが、常日頃から思っておりましたので発言しました。

(会長)

ありがとうございました。今の観点が、まずは効果的だった前提のご指摘かなと思いますが、人的なつながりを有したコーディネーターのご活躍が効果的だった、というのもありましたし、今後そういった APU など九州の様々な組織との連携も期待したいという話としました。この観点は、効果的であったということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

私も一言ですけども、書類の上での話ですが、今後の方針だけではないと思います。このような新たな方策を検討していくなど、具体的に記載されることもご検討いただきたいと思います。書いてある通り、「コロナの終息を待っています」的にしか書いてないので、これでは今後の方針と言えないかと思います。ご検討いただきたいと思

ます。

(会長)

次の項目に入ります。マグネットシティの2つ目。未来人材育成就職促進事業です。こちらに関しましてご意見いかがでしょうか。

(委員)

天草から都会に流出するということが深刻だとはすごく分かるのですが、深刻けれども、若者はどうしても脳の刺激が欲しいので、絶対に出て行きたいっていう人もいるし、もちろんとどまりたいっていう人もいると思います。引き止めるのは、やはりちょっとおかしいなと感じていて。学びたい人がいれば外に出してあげて、そこからまた、長期にわたって天草に何かを持って帰って来てもらえるかっていうところまでの、すごく長い時間をかけて、取り組んでいくことも必要だと思います。まずは、戻ってきても、何もない場所だよと発信するのではなく、天草は何でもある場所だと私は思っていますので。引き止めるのではなく、例えば、出て行ってしまった人の分以上に都会から来たいと思えるようなものを作り上げていくっていうことを一番に考えたらすごくいいと思います。これも常々思っていたので発言させていただきました。

(会長)

今の観点に関しては、こういった受け止め方しました、こういったようなことが重要と思いましたが、こんなことしていますなど、何か事務局の方からご説明ありますか。

(事務局)

確におっしゃる通りだと思います。ただ、求人をして人も集まらないなどの問題も抱えております。まずは、高校生に天草にもこういった企業さんがたくさんあるというのを知ってもらうというのがこの説明会とであり、そういった場であると考えております。決して引き留めるとか、そこに重きを置いているというわけでもなく、まずは天草の企業を知ってもらいたいという観点でやっておりますので、ご理解をいただければと思います。

(委員)

私と年代の同じ世代のお母さん方からは、天草にすごい高校があると聞かれたりするので、都会にとったらすごく魅力的な場所なので、そういうのをもっともっと発信して、その先にどんな就職先があるということも、もっと発信したら、すごく広がるなと思っています。

(副会長)

今の委員からのお話にも繋がるのですが、この三つがまずは連携していることが非常に素晴らしいなと思っていて、私は上天草の地方創生の方も携わっていますが、さかんに言っているのは、その似たような仕事していたら、一緒にやってくださいっていうのをずっと言っています。なので、まず、それは評価できることかなと。どこでしゃべろうかなと思っていたのですが、今の話聞いて思ったのは、このマグネットシティというのをもう少しちゃんと捉えて欲しいなと。ただピタッとくっつけるだけだったら、ただの呼び込みじゃないですか。磁石は、くっついたらまたつぎの磁石にな

っていくみたいな、その次の展開をやっぱり見据えたアイデアを。だから KPI も、その進化していく KPI というかですね。さっき、おっしゃったみたいに、何か新しいことを起こすとか、移住者の方が来られて、ただ人が増えただけでなくて、その人か何か新しい価値を作り出すみたいなのを強化していくような、そういう仕組みを次に作らないといけないと思います。事業年度が令和 3 年の 3 月で終わるのですか。三つの中で、ここだけ 1 年早いので、なにか仕組み的にあるのですか。次に打つ手が決まっているというならいいのですが。中学生をターゲットにした起業とか、新しい業の起こし方など、「ただ外から大学生が来て、何か面白いことやっています。」だと、先行きがありません。その子達に刺激を受けて、天草の若者が、新しい働き方、ここにおられる先輩方みたいに、そういう新しいことを起こしたいみたいものが 1 件でも 2 件でも増えるっていう事が次に繋がると思います。そういう新しい指標作りみたいなもの、入るといいかなと思いました。これは、コメントです。

(会長)

それぞれコメントと質的なポイントとあると思いますので、事務局でまとめて頂きたいと思います。ご質問があった、終了年度ですよね。そこに関してちょっと補足していただいてもよろしいでしょうか。事業によって終了年度が違うところありますので。

(事務局)

すいません、これは間違いです。令和 4 年度までの事業となります。申し訳ございません。

(会長)

どうしても時間軸を短く、すぐ高校生の方々が、こう分かることも必要なことですが、先ほどもありましたが、どんどん送り出してさらに戻ってきてもらうというようなことにもつなげる事業があつていいと思います。マグネットは、強力なものでグッと引き寄せられるのもあれば、色んな意味で、くっついていて離れながらもやるということもあると思います。さらにこの考え方の熟度を上げていただけたらと思います。

(副会長)

離れても磁力は通じているみたいなの。「いっぺん離れたけれども帰ってきてくれる。」「向こうで新しく磁場になって呼んでもらえる。」そういうイメージがあつていいと思います。

(会長)

先ほど委員がおっしゃっていただいたとおり、出て行った人以上に戻ってきたいと思えるようにはたくさんの情報がないといけないし、もっともっと、そういった時間軸で考えることも加えていただくことで、このマグネットシティの構想がより効果的なことになると思います。

では、効果的だったという前提で、今のようなご指摘をまとめていただきたいと思います。

(会長)

マグネットシティの3つ目、移住定住促進対策事業になります。これに関しまして、ご意見いかがでしょうか。

(委員)

二つ目のUIJターンのところとも結びつくのですけれども、市では動画の投稿をされています。天草市UIJターンしごとチャンネル、それから天草Cityチャンネルにも、UIJターンに関する動画が投稿されていて、そして、天草市移住・定住サポートセンターにも。これは全部YouTubeのチャンネルですけど、移住定住サポートセンターの方でも、移住定住ののち、起業された方の動画があるのですが、この辺りがそれぞれになっていて、そんなに見られていなくて、すごくもったいないと思っています。UIJターンしごとチャンネルの方では、天草の企業さんの紹介が、おそらくオンラインの企業説明会用に作られたものと思っていたのですが、いつ、どのタイミングでUIJターンをしたいって思うかわからないので、まず知ってもらえる仕組みがあるといいのではないかと思います。せっかく素敵な動画を作られても、作った人の周りしか見ていないと思うぐらい、閲覧数が少ないものもあったので、もったいないなと感じました。

それと、コーディネーターの件ですけれども、移住定住コーディネーターとして、今は3名の方がいらっしゃると思います。女性や子育て世代からの相談も増えているということで、1名増員されたということだったのですが、市役所の中にいらっしゃる移住定住コーディネーターの方や市長が任命された方もいらっしゃいますけれども、もう少し話がしやすくなるような仕組みを作ってほしいです。どうしても市役所に行っても、メールだけの相談とか、電話だけの相談っていうのであっても、もう少し起業したいのだったらこういう人、子育てについて聞きたいのならこういう人など、色んな人との連携がとれたらもっと聞きやすくなるし、どんなことが求められているかなどもわかるのではないかなと感じています。

また、関係人口の基本目標2のところ、関係人口の創出拡大とあるのですが、環境整備は具体的にどういうことを考えられているのかなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。すべて重要なポイントだと思います。

動画の話とコーディネーターの話、最後の関係人口の話を、まとめてでもいいですが、ご説明をお願いします。

(事務局)

先ほどYouTubeチャンネルの動画につきまして、私たちの課では、あまくさライフというホームページの運営をしておりますが、他のHPでの個別動画閲覧数や、どのような経緯で作られたなどについては、申し訳ございませんが現在把握しておりません。

二点目のコーディネーターについて、現在3名任用させて頂いております。平成27年度から始め、任用に伴って、実際移住をしていただいた移住者数も増えてきております。時間的な制約や相談を受ける内容、そのような部分で十分に対応できないというところもあったため3名に増やしたところです。基本的には、いろいろな相談窓口

を分かりやすく構築すべきではないかというご提案でございますので、私たちが常日頃からどのような形で、実際相談される方が話をしやすい環境が取れるかなど試行錯誤をしながら、取り組んでいるところでございます。頂いたご意見を参考にさせていただいて進めていきたいと思っております。

また、サポーター制度ということで、実際に移住された方や地域の区長さん、振興会、まちづくりの方など地域のサポーターになっていただいています。団体のサポーターでは、移住者へのその支援をする企業さんがいろいろなPRできる部分があればそのサポートになって頂いております。現在、団体で4団体、個人サポーターは今十数名になって頂いており、ゆくゆくは各地区に2、3名程度お願いできればと考えております。それぞれ地域に根ざした、いろんな相談体制ができればというふうに取り組んでおりますので、今後とも、ご協力の方よろしくお願いできればと思います。

最後に関係人口ですが、天草市では関係人口という取り組みで、ふるさと天草元氣プロジェクトを立ち上げ、ふるさと住民登録という制度を設けております。今年の4月現在では428人の方に登録をしていただいております、男性が多くて281人、女性が147人という状況になっております。登録の理由については、出身者、親戚がいるほか、ふるさと納税の方であるとか、そういった方に登録をしていただいております。このふるさと住民登録についても、色々な住民同士の交流といった部分も必要かなというところで今考えており、そのための環境整備を現在行っているところです。

(会長)

現状の説明を追加していただいたと思いますが、委員からいただいたような観点はぜひ意識して今後の展開もご検討いただければと思います。

補足的に私も思ったことで、動画には市でどれだけ作っているかをご確認いただいていると思います。天草市に限ったことじゃなくて、去年いろんな自治体がこのコロナの状況で、事業実施が無理だったために結構動画を作るってことがブームとなっており、多くの自治体がたくさん動画作っています。それがおっしゃる通りで、一括的にあまり把握できてなく、似たような動画も多くあり、どの動画をどう使っていくのか、逆に戦略的に動いていかないと効果的なことが生まれませんと思いますので。ぜひそういった観点をご検討いただくといいと思います。コーディネーターの件に関しましても、しっかりと体制を作られている事が大切であると思われました。委員が言われたように、何を誰と話せるかってことが見えてくるとより安心して、もっとコーディネーターへの相談やこういう相談もしていいということがわかると、より良いと思いません。情報発信も是非意識していただくといいと思われました。

(副会長)

今の、動画の話はすごく面白いなと思っております。それを市役所の人ができるのではなく、例えば高校生に調査を依頼するとか、そういう風にも勉強してもらいたい教材として非常にいいかなと思われました。行政の方やるとどうしても、お仕事となるじゃないですか。そのあいまいなことを高校生とか中学生に、リテラシーの勉強も併せてやってもらうとかっていうの、非常に良い教材だと思われました。コロナで多くなったと思っていたのですけど。ジャストアイデアです。

(会長)

この会議の意味は、市役所の皆さんはしっかり仕事されていますので、その中でさらにこれをやれということだけではなく、実はこういうところと連携を増やすとより効果的になるし負担も下がりますなど、ぜひ追及してもらえるといいですね。そういった感じで、各論の一個一個のところだけかもしれませんが、そこから見えてきたヒントをぜひ活かしていただいて、こういった展開もやってみようと、天草市にはみつばちラジオもあり、高校生の方々も元気ですよ。ぜひご検討いただければいいかなと思います。

(委員)

今おっしゃるように、実際このコロナ禍の中で自分のところも福岡工業大学附属高校の授業の一環で YouTube を作って頂きました。学びの場で、そういう風な能動的に働きかけて作ると、自分らが思っている視点とはまた違うようなことが出来ますし、それはもう本当に役所の方のご負担も減らせる機会もありますし、両方が win-win の関係になるので、実際自分もタイムリーにそういう体験しましたので、すごくいいことだなと思いました。

(委員)

天草の退職校長会の方では、みつばちラジオ使って閉校になった天草の学校も含め、およそ 155 校の校歌を二市一町の地域情報として放送しています。委員がおっしゃったように、その中で、上天草市では、上天草高校の高校生に、上天草の旬な情報という事で、高校生が上天草市を紹介しています。高校生の目線からです。やっぱり捉えた、非常にホットな情報が多いです。先ほど、事務局がおっしゃったように、ふるさと住民制度、ふるさと元気プロジェクトでは私の教え子も、今東京の方で一生懸命頑張っております。ぜひ天草市のサポーターとして、彼らを通してどんどん、そういったサポーターの輪が広がっていけばとてもいいと思います。

高校生目線、あるいは中学生の目線からつくった天草市の紹介でなどがあるとなんか魅力的ですよ。天草高校にしても、天草工業高校、拓心高校、牛深高校でも構いません。そういったことで、天草で今学んでいる子ども達のあの目線から見たですね、天草紹介を。それを二市一町が一つのワンチームになって取り組んでいくと、あの天草市ばかりではなく、天草全体が浮遊するのではないかと思います。非常に仕事を増やして申し訳ないのですが、やっぱり 5 年先 10 年先を考えた時、子どもたちが大きくなってくると、きっと天草が好きになって、天草の宣伝隊になってくれるという気もするものですから、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

(会長)

例えば、移住定住で成果に繋げるというところにこだわっていただけたらと思います。その時に今ご発言いただいたように、素材としてはたくさん可能性ありますし、まわりをよく見ていただくと色々なところが動いています。どのように組み合わせたらいいかなども含め、ぜひ今後ご検討いただくといいと思います。

《多文化共生「天草版サラダ・ボウル社会」の構築事業》

○事務局より説明

(会長)

サラダ・ボウルの件に関してご意見いかがでしょうか。

(副会長)

これは特にコロナ禍でなかなか難しいと思うのですが、天草市役所が動くというよりは、受け入れることが大事なんじゃないかなと思っています。さっきも言いましたが、僕は皆さんの仕事はなるべく減らしたほうがいいと思っています。やりたいと思っている人に門戸を開いていただく。だからここだけ頑張ってくださいねっていうのを作るのが市役所さんの仕事だと思います。そういう形で多様性を受け入れていくような人材を。その情報開示が一番大事かなと思っています。ここまではオープンにできますよ、みたいな。そういうことについて、仕事をされた方がいいかなということだけ、コメントになりますけど。

あと、多文化共生って、本当にやろうと思うと自分が一番オープンになるのが、多分一番良いことだと思います。私が海外行ったとき、結局日本のことも喋れないのに海外の勉強はできないとすごく思いました。天草市をどれだけ情報開示できるかってことが、多文化共生の鍵になると思います。コメントですけど、そこだけ思いました。

(会長)

そういう観点はちょっと弱いかもしれませんが、加えていただきたいと思います。では、この観点よろしいでしょうか。ご協力ありがとうございます。

【地方創生拠点整備交付金】

《天草市イルカセンター（仮称）の整備による天草市の観光振興と地域活性化》

《宮地岳観光交流施設整備事業》

○事務局より説明

(会長)

委員の皆さんからまとめてご意見頂きたいと思います。

(委員)

このイルカセンターとかかしの里ですけれども、開業されてすぐにコロナの影響が出てきて、売上げが下がってきたと思います。すごく影響があったと思うのですが、その前に努力はされていると思うのですが、中に入っている管理者が、ある程度販売のプロじゃなくて、素人の方ですよ。逆に言えば漁協さんとかかしの里のところでは地域の方が作られています。まだまだ勉強するところが大変多く、消費者、観光客に対するそのサービスの向上に向けた取り組みがちょっと薄いような状況と思います。もう少しそのプロを入れて教育されたりなんかしながら、お客様が来られて、「ああ、楽しかったね」って、天草弁でもいいから声かけていただいたという状況ができると、もっともっと効果が上がってくると思っています。今後の要望として強化して頂ければなと思っています。すると、もっともつと島外から訪れるお客様が増えるのではないかなと思っています。そのところをよろしくお願いしたいと思います。

(会長)

立ち上げに関しましては、効果的でなかったとはまず思われてないってことで、委員合っていますよね。その上で確かに立ち上げ期というのは色んな混乱もあり、まだ慣れてないとか、これから事業始めた方にはよくあるパターンかもしれません。安定期に入るために、ないしは再訪問を促すために、色んなことを学ぶことも必要となってくるということもあると思います。そういったご指摘いただきまして、まずは、立ち上げ期の次の段階を見すえた、そういったこのサービスとか、色んなことを学ぶことを促す必要があるのではないかというようなご指摘をいただいたということによってよろしいでしょうかね。

事務局のご意見ございますか。

(事務局)

ご指摘いただきましたように、確かにその運営のプロではないところが入っていらっしゃる。イルカセンターは漁協さん、宮地岳の方はもう自分たちのところで出資金を募られて、株式会社を作られて地元で運営されております。今確かに、試行錯誤をされながらやられているところです。

特に宮地岳におきましては、地域住民でやるということになりましたが、やはり高齢化というところが、議会の方でも非常に心配をされておりました。ただ、移住をされた方が8月1日から店長になられます。50か51歳だと思いますが、その方が店長になられるということで、今、地域は非常にまた活気付いております。毎月運営委員会を開催されており、宮地岳が非常に素晴らしいと思うのは、多くのアイデアが常に出されていて、それを常に毎月実践をされております。売り上げに対してもどうだったのかという反省会もされており、ここにはますます関わっていかねばいけないなという風に思っているところです。

また、SNS関係ですが、今、積極的に取り組みを始められました。地域おこし協力隊員に写真のプロの方がいらっしゃいますので、先日は道の駅支配人会議を行い、SNSの大切さというのをまず講義をしていただきました。今後、地域おこし協力隊の方には、道の駅のほか、観光施設の方にも入っていただき、アドバイスをしていただくなど取り組んでいきたいと考えております。

また、九州財務局と繋がり、ジョブケーションということで、販売管理や売上アップに繋がるようなアドバイスをしてくださるという方と繋がり、道の駅等を回って頂いておりますので、その効果をまた確認をしてまいりたいというふうに考えております。

(会長)

より丁寧な説明をいただけたかなと思います。この二つに関しまして、同じような指摘のことになりますが、そういった記載をさせていただくということによってよろしいでしょうか。

(委員)

道の駅は、JAFや道の駅の全国の色んな地図がありますが、天草市の道の駅をピンポイントで位置付け、良さや利便性をはかるなどの取り組みを市としても必要じゃないか

なと思います。トイレとか、そのような大事な情報がありますので、まだならば検討していただきたい。すでに実施されているならならもうそれで構わないと思います。それに対する戦略として、そういった情報開示をもっと進めていただければお客さん方がたくさん来ていただけるという気がします。

(会長)

そういった観点もご指摘いただいたということをお願いいたします。広域からどんどん来ていただくようなことも可能性と思いますので。

## (2) 第2次天草市総合計画の推進について

### 【全体概要説明】

○事務局より説明

### 【産業経済部門】

○事務局より説明

※主に政策5「地産地消・地産他消の推進」について説明

(副会長)

全体的な話ですけど、やはりコロナの影響をどう見るかということは、全部に関係すると思います。コロナの影響がある分は、差し引いて考えるというか、仕方がないという風にできると思うのですが、コロナが関係しないものが心配と思っています。そういう意味では、商店街を今後どのようにしていくのかということは、根本的にどうなって行かなきゃいけないのかってことについて議論した方がいいと思います。

また、達成できてなかったところで意識的に天草の物を買う、買わないって話がありました。この政策の地産地消の話だと思います。冒頭の事務局からの説明で下がっているポイントがありましたよね。本当だったらコロナになって外からの物を買にくくなっているはずなので、域内のものを買わなきゃいけないはずなのに、それが下がっているっていうのはちょっと致命的だと思います。先ほどの話じゃないのですが、地元にあるいい物に気づかずに、安いものに手出しているという風なことかなと思うので、それに対しては根本的にもっと天草のインナーブランディングというか、天草の物を買うことは地域のためになるということ、もう少しアピールしていかないといけないのではないかと思います。

災害の時もですが、その災害で起こったことは仕方がないことなのですが、災害前からのひどいことがよりひどくなるというのが結構あります。やはりそういうところに、ちょっと注目していかないと。そもそもあの銀天街がこれからどうある、どうあるべきか。昔みたいには絶対にならないので。じゃあどういう風な、あれだけの空き地ができたりとかしている中で、どういう職だったら、仕事だったら楽しんであそこでやってもらえるかなど。私は、空き家が増えてもいいと思うのですが、空き家を有効にどうやったら活用できるか。例えば夏だけでも学生さんが住むとかでもいいと思います。サマーキャンプをやる時に空き家があってよかったね、みたいなのもいいと思います。商店街のあるべき姿というものをちゃんと考えなきゃいけないのではないかなと思いました。それを検討してくださいというお願いです。

私が言いたいことは二つで、コロナのことに関しては全体的にですが、「コロナ前からの問題がひどくなっている事に関しては要注意」という事が一点目。「商店街のあるべき姿をちゃんと考えたい」というのが二点目です。コメントになりますが。

(会長)

コロナの影響は困ったことではなく、だからこそ何するかであって、今の委員のご指摘の中でちょっと私の補足も入れますけども、それこそ皆さんが地域のものを買うべきということを気づかされたわけですよ。こういった展開の中でどのようにして市内向けに、インナーブランディングと言われましたが、市内の皆さんに市内のもの、市の事業者のものを買ってもらってことをどういう風に呼びかけているかということが、かなり重要な要素だと思います。そういったあたりをどうお考えなのか、今から集中的にこんなことをやる、もちろん来年度に向けてって話もあるかもしれませんが、今できること今やるべきですから。どのように市内のものを購入することを今のタイミングだからこそ発信しているかなど、もう少しご説明いただく、ないしは、こんなことを考えていきたいなどのアイデアをいただければと思います。事務局の方はいかがでしょうか。

(事務局)

域内循環ということで、市長から、まずは職員から始めようということで、経済循環としてのお金の流れや物の流れ、そういったものの研修会を実施するよう指示されております。今年度、職員向けの研修会を行い、今後は、市民の方に対してもこれだけ地域内でお金を回すことの重要性など今年度そして来年度以降、取り組む予定としております。

(副会長)

まずは、行政職員、自分達というのは本当に素晴らしいと思いました。

(会長)

いろいろな情報発信、こんなことを市民に呼びかけますという話は期待しますし、まずは市の職員がという事がすごくいいと思います。ぜひ、市の職員向けに行っていただいて、これだけ市の職員が買っていることを意識していることを表に出すことで、市民にとってみても、市の職員が頑張っていることがわかると思いますので。もちろん低い数字だとしても、あえてみんなでやりましょうと思っていただければ、上がる数字だと思えますので。市職員の実質がどうなのかも是非見ていただきたいと思えます。

今、副会長からあったように、市の職員の話で考えると、職員は市役所で働いてのですから、この職場の中での販売があってもいいのかもしれないですよ。なぜこのことを話すかというと、東京の企業では、最近、オフィスの受付付近で色々な物品を販売できるようになってきています。皆さん忙しいし、買いに行く時間もない。逆を言うと、そういう場で売れるということになります。市の職員の方々が買いやすい場を提供するというのもやってもいいと思います。もちろん眺めているだけというものもあるかもしれませんが、共同購入もあるかもしれない。そういったことをやってみて、そういったことを発信していただくってことも重要だと思います。市の職員が率

先して行っている事が伝わることで、そういう市役所ということが市民の皆さんに伝わるってことが重要だと思います。このため、情報発信というと一般的に困っているから買ってくださいと思いがちですが、もう少し工夫していただくこともすごくいいと思います。

あと、商店街の在り方について、そもそも論が必要というタイミングだと思います。これはこの指標が上がらないということに向けた議論だけじゃなく、次の第3次計画に向けた、早期な議論にもなってくると思います。そういった検討や考えるべき人たちの体制、アプローチの仕方など、例えば、子育ての方々に考えていただきます、みたいなこととかもあると思います。こういった可能性や、商店街のあり方、今後の新しい工夫とかもです。どのようなことを今後やってくとこの数字は上がるのみたいなことを含めて、事務局からご意見、あるいは思いつきでもいいのですが、いただけますか。

(事務局)

まず、銀天街では、「まちはみんなの遊園地」と題して、市民が月に1回、定期的に活動されており、本当に回を追うたびに賑わいを見せております。そういった取り組みへの支援のほか、天草まちゼミといった商店街を活性化していく活動と併せ、市の政策の一つとして、IT関連の企業などを銀天街への誘致として、現在アマビズさんの活動のほか、ファロールさんという、テレワークの店舗があります。そして先日、ハナハナワークスおきなわという企業と立地協定を結ばせていただき、銀天街の空き店舗に入っておられます。今後もさらにそのような企業さんを増やしていくことで、人の流れ、特に若い人の流れができていくのではないかとということで、取り組んでいきたいと考えております。

(副会長)

今の話も面白かったです。今のみなさんの取り組みは素晴らしいので、第3次計画の策定に向けて商店街のあり方っていうのは、やっぱり抜本的に直さないといけない、ハードから見直さないといけないと思います。やっぱり大きいですので。

私は、菊池でも関わっていますが、菊池は街そのものがちょっと昔の作り方で大きいので、もう少し小さくて間があいてスカスカでもいいと思っています。もちろんまちの遊園地やまちゼミなどでいろいろな新しい使い方をするのはいいと思います。その時は、市役所だけでやらないのが大事だと思っています。大体、三つぐらいと一緒が行うことがいいと私は思っています。商売されている方、民間の方と、市民と、そして、市役所。常に三つのテーブル。まちづくりはそうなっています。市役所があんまりやりすぎると、やってもらえなくなって思ってしまうので。だから、自分たちでやる分と、自分たちで勝手にやる部分と。そして、市役所は支えられる部分ですね。市役所が商売するわけじゃないので。その関係性をちゃんと話せる場を、第3次計画の策定に向けて作っていく必要があると思うので、もちろんこのトータル・システムは大事なので、このまま循環していくのですが、それに乗っかる形で、競争の場を作っていく必要もあると思っているので、要検討というかコメントですけど、ぜひお願いします。

(委員)

今、副会長からお話があったみたいに、私も商店街にかかわった人間ですので、そのときから商店街の在り方をよく考えていた時があります。商店街は「買い物に来てくれる」というのが前提ではなく、まずは商店街を使ってほしい。それは、一般の学校の絵画展や習字の発表の開催、音楽の発表など、商店街を充分使っていくことで、子どもたちが「この商店街が必要」いうことをまず分かっていたいただきたいと思っています。今それがなくなってしまう、私が数年前に調査した時は、中学生が商店街に来たことがないとの答えがあります。そのような状態です。やはり、ちょっと考え方を改めて、まあ楽しい場所っていうことを表に出しながら、商店街を活用していただければいいと思います。

あと、この空き店舗ですが、今のコロナ禍で空き店舗は、今からはどんどん増えてくるのではないかと思います。色々悪い話あるかもしれませんが、逆に言えば、空き店舗が増えるという事は、家賃が減る、少なくなるということで、今度はチャンスです。コロナが落ち着いた時はそこを有効活用してもらうことが重要です。しかし、商店街の「この店舗の家賃はいくらぐらいかかるか」、「何平米あるか」など以前は分かっていませんでしたが、今年度の取り組みの一つとして、宅建天草支部との共同で、空き店舗バンクの物件を充実させると記載されています。このことは、人吉の商店街さんは、以前から取り組みをされています。会議所のホームページ見てみると、「空き家がどこにあって、何平米で、どの位の家賃で貸せる」という情報が入っています。そのような取り組みを行うことによって、外の方に知ってもらうということになります。そういうことも大切な所かなと思っており、私はすごく期待しているところです。

(委員)

銀天街では、「まちはみんなの遊園地」を、実は昨年12月から始めましたが、元はあるママの『銀天街ってこんなにいいところだよ』という、地図から始めました。ママ達は自分たちであるアーケードの良さを知っていて、そこがいかにも子どもと散歩するに最高で楽しめる場所なのかということ自分たちで地図を作って配っていました。そこから始まったのが、「まちはみんなの遊園地」です。毎月続けていて、一回も休んでいないのですが、随分と人が集まるようになってきて、人だけではなく、もちろん市役所の方にも協力はいただいています。学生が毎回ボランティアとして60名ぐらい参加されています。今度は大学生への声かけ、企業さんや起業してみたい方が一旦ここで体験をしてもらうことも計画しています。その他にも空き店舗を利用して高校生の派出所ってところを作ってもらい、現在は天草の3校の学生さんたちと一緒に会議をさせてもらう機会も出てきました。子育てのママ達が最初の発端から「街がこんなにいいところ」とか、あの「銀天街ってこんな楽しさがある」を市民から頂いた声から、今すごく大きな輪になってきています。商店街は、買い物をするだけのところではなく、いろんな市民が安心して楽しめる場所など、もっと大きく見ていただければと思います。商店街の人自身がその部分へ気持ちが持って行ってないから銀天街がなかなかうまくいかないみたいな声も聞いていたので、商店街の人たちがそこへ意識が行かないのならば、市民がもっと意識を持つていくことで、

きっと商店街のちょっと落ち込んだ雰囲気盛りが上がっていくのではないかと思います。銀天街は、この中心部の中であって、雨天でも歩ける場所でもあり、今は一部シャッター街にはなっていますが、昔はいろんな店舗がたくさんありました。市長も言ってらっしゃいましたが、そこを利用して学びの場があるとか、私だったら、もっと赤ちゃん連れのお母さんたちが、いつでもフラってそこで休めるような場所があるとか。そういうのが銀天街の中にいっぱいできたら、一つの街があそこにあるのではないかと思います。是非ともこの商店街の形というのは市民と一緒にいい方向に行けばいいなと思うところです。

(会長)

今の二人委員からは似たご指摘だと思いますけども、商店街の使い方とか、楽しみ方とか、そういったものを今時代に合わせて1回整える時かもしれませんし、そういったことで地域の経済循環がさらに進むようになりますので、ぜひ工夫すると思います。事務局からそのあたり、何かご意見ありますか。

(事務局)

委員さんからのご意見に尽きると思います。特に皆さんがやってらっしゃるイベントですので。

(会長)

この際、「毎日やった方がいいですよ」、「何かもっとやってほしい」などできる範囲だけではなく、そう考えたらこっちの団体やあっちの団体、学校の方々とか。このようなことをしないと天草市の経済循環はできないということでもありますから。ここは期待値が高いところですので、是非お願い致します。

(委員)

人が集まる魅力がないといけないと思います。今意見が出ましたが、銀天街に行けばいつでも保育園から高校生までの作品などいろんな交流の場があるということ。そして天草出身の有名な鶴田一郎先生のアートギャラリー。湯前の漫画博物館ではありませんが、あそこに行けば、漫画の名鑑が見える、ぜひ、鶴田一郎さんの美人画が見られる、そういったところもあれば。子どもたちの絵や活動の様子、高校生の作品展示などそれがいつも見られるような場、子どもの作品があれば、きっと家族や親戚も集まってくると思います。そして鶴田一郎さんみたいな有名な方の絵があれば、行ってみようと集客能力も高くなると思います。

あと、銀天街のことは前から言われてきました。この辺りでやっぱり意識を変えてみんなで考える。商店主ばかりじゃなく、天草市全体で考えていくなど全体的に広がる取り組みが私は必要と思います。一地点の課題かもしれませんが、天草市全体の課題と捉えて。例えば、区長会が各地にあります。区長会で、中心である銀天街のことを活性化するために、私たちはどんなことができるのか、どんな事が協力できるのか、それは天草市全体として取り組んで協議していく。そういった取り組みも私は個人的に必要じゃないかなと思っています。以前は、大門港から牛馬で天草に仕事に来て、春は招魂祭、夏は祭り、そしてお土産買ったり農機具を買ったり、そういった交流がありました。そして、あの店の中からは、おばちゃん達の元気のいいあいさつが

聞こえてきた。あの活気がなぜなくなってきたのか。待つて売るのではなく、やっぱり攻めて売る。そういったことも必要じゃないかと思ひます。そういった本当の魅力づくり。それを子どもたちも含めて、鶴田一郎先生、そして天草市全体で考えていくことが必要じゃないかなと思ひます。

(委員)

二点ちよつと思つたことがあつたので発言させていただきます。

意識して天草の品を買いたいと思ふ人たちの割合が下がっているところを改善するために、年代別に去年からどう変わったかを見ることもいいのかなと思ひます。もし高齢者の方々の人たちが買いたいと言ふ割合が下がっているのだったら、買いにくさがあるのか、若者の10代、20代が下がっているのだったら、そこに向けて何か施策を行うといいと思ひます。また、陶磁器展での購入金額が去年の2倍になつたというところは、とても良いところだと思ひます。ぜひ、来年も継続できるような施策が反映させてあつたらいいなと思ひました。このことが記載されていなかったの、その点も継続していけるような施策があるといいなと思ひました。

(会長)

ぜひ、その観点を折り込んで、方針を立てていただければと思ひます。

#### 【観光・文化部門】

○事務局より説明

※環境指標4「国内外の多くの人々が天草を訪れること」、環境指標5「市民が歴史や文化などに関心を持っていること」について説明

(会長)

この令和4年の目標にたどり着けないと最後のあたり、もうちゃんと正直に言つていただいていいと思ひます。だからこそ知恵が必要なところでして、そのあたりを委員の皆様から重点的にご意見頂きたいなと思ひます。

(副会長)

何回も熊本大学と出てきたので、身の引き締まる思ひです。今回、私はこの場で勉強になつたなと思ふのが、いつも皆さんたちとやっている観光文化で、私の場合はどちらかという文化財の専門で入っていますが、毎回そのまちづくり的にやるにはどうしたら良いかというのを市役所のみなさんがこう受け止めていただいているということが分かりました。学生たちにも市民の皆さんにも説明しやすくなりました。学生は、来て勉強はできていますが、いつかはいなくなつてしまひます。やはり皆さんがやる気になること、市民の皆さんが。それを市役所の皆さんが支えるという構図だと思ひますが、次の第3次計画を見据えると、「持続可能かどうか」ということが一番大事になってくると思ひます。みつばちラジオさんが活躍されていることはすごくいいことだと思ひます。口コミや自分たちがやっていることなどを。崎津や今富は、中山間地の普通だったら人が来ない地域です。それが、世界遺産ということで、その向上心のある方とか、天草で色々勉強したいと思ふ人がたくさん来てくださっています。今はコロナのこともありますが、海外からもそのような興味を持つ

た人がたくさん来る可能性があることはすごく大きく、世界遺産をきっかけに、その西海岸の素晴らしい風土を色々勉強してもらえらるって時に、長期滞在や民泊など、そのようなものにつなげていくことが、本当は商工観光の方の仕事じゃないかなと思っています。それに文化財が使えるというところが、天草市のすごい特徴だと思います。そのようなことを意識していくと地道なことですが、必ずその目標達成には関係していくと思います。私たちが頑張りますが、ぜひ市役所と、あと市民の皆さんと一緒にやるという姿勢を是非持っていただけたらと思います。全体でいうとコメントですけど。分析が的確で素晴らしいと思いました。

(委員)

地元ラジオが何回も出てきて、ありがとうございます。実は、みつばちラジオでは、月に1度公開生放送を行っています。毎月この場所と決めて、かなりポイントを絞った地区で行なっています。その時は、その場所の歴史、産業で頑張っている人、そしてこういうお店がありますなどで行っています。8月は通詞島で行う予定です。少しずつですが、反応も増えてきていて、歴史の話ってすごく皆さん喜んでくださいます。あと、合わせてこういうお店があるって言うことを知ることで、じゃあ買いに行きますねっていう反応もあっています。歴史を知ること、その場所でこんな風に頑張っている方がいらっしゃるということを知ること、地産地消に繋がっていくとも感じているので、ぜひぜひ、みつばちラジオの中では、観光振興課は天草カラーという番組で発信もされていらっしゃいますが、皆さんの方から、みつばちラジオを活用いただきたいと思っています。

天草カラーという番組名、私はとても面白いと思っています。そこで思ったのが、どうしても観光ということになると、特定の地名とか建物名が出てきます。それはそれでももちろんその場所があり、建物もあるのでわかりやすいのですが、もう少し漠然とした、例えば本当に色だったりとか、香りだったりとか、そのような観光紹介の仕方もあるのではないかなと思っています。そうすることで、いろんな世代の方がいろんなものを見つけに来てくれるのではないかなと思っています。これはコメントです。

(委員)

ぜひ、今おっしゃった、色とかにおい、このみかん美味しいとか、絶対現場で、ラジオで生放送とかよくないですか。

(委員)

牛深って、出汁の香りが最高ですよ。もちろんそれを声・言葉で伝えるのは難しいのですが、みんなに牛深に行ってもらって、出汁の香りを嗅いでもらいたいです。あんなに香りがする場所ないと思っています。

(副会長)

ラジオでそれを。素晴らしい。

(委員)

なるべく、そういうものを伝えていきたいと思っています。名前、場所は残りますが、他のアプローチの仕方もあるのではないかなと思っています。例えば女将さんシリ

ーズなど。しかし、旅館の女将さんシリーズもいいと思いますが、天草って面白い方がたくさんいらっしゃるの、その方に会いに行く楽しさっていう、そういう観光もあってもいいのではないかと考えています。

(事務局)

ありがとうございました。現在、委員とも観光振興課の職員がかなり関わって頂いているということで、天草カラーの方がその色というのを中心とした番組内容を増やしてきております。話を聞いて委員からのいいアドバイスを頂いていると感じております。ありがとうございます。

(委員)

市民が歴史や文化などに興味を持っているところを高めていくために目標を目指した今後の取り組みのところで、さらに周知啓発を図っていくというのが掲載されていますが、その切り口の一つとして自分が思ったところがあります。私自身が歴史を学びたいと今まで一回も思ったことがなかったのですが、学ぶきっかけになったことがありました。私が起業家として今会社のチームをまとめて行く時に、天草四郎は何万人の、しかもその兵士ではない農家の人たちを率いてすごい戦いをやったというのは、どのようなマネジメントの仕方で農家の皆さんが協力してもらうためにどのような根回しをしたのかなど、そのようなところから勉強になっていきました。私の起業家の友達などにも天草に観光する時は、ただクリシタンの歴史があつてとかではなく、学ぶためにというか、自分たちが起業家としてこうマネジメントをして、みんなで一致団結して進んでいくためにという目的を持って歴史を学ぶと、とても興味を持てたので、そのような一つの切り口として、天草の社長さんたちにも歴史を学ぶと言うか。天草というところで、すごいリーダーシップを発揮した偉人がいるって言うのを起業家の人たちが学ぶことから広まっていくのではないかと一つ思いました。

(委員)

歴史や文化の中に産業的な歴史も少し関わればと思っております。先ほど委員もおっしゃったように牛深に来た瞬間、香りがします。もともと雑節は、鯉節から入っていきました。漁業の変遷とともに、イワシやサバに転換していったなどいろいろな歴史もあります。構造物であったり、いろいろな人であったりもそうですけど、産業の歴史も、一緒に地元の教育機関などいろいろな人と学びながら、あと食へと色々なことに転換できればまた楽しいのかなと思います。その際は、なんかお手伝いできればと思います。

(会長)

何か事務局からございますか。今色んなご意見いただきましたが。

(事務局)

いろいろなご意見ありがとうございました。委員が掲載されている記事を文化協会の冊子の方で拝見させていただきました。非常に、雑節の歴史がわかるようなことが素晴らしく書かれており、なるほどと。私も牛深出身なので、非常に興味深く読ませていただきました。

確かにそういったことをまず市民が知らないといけないのだろうと私は感じてお

ります。市民が感じることで、やはり誇りを持つことに繋がると考えております。また、そのような情報を、どのように伝えていくかなど工夫をしないといけないと思っております。先ほどから出ておりますみつばちラジオなど、地元のメディアもフルに活用して構築していければと思っております。委員の皆さまにもご協力をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

私からも一言、皆様のご意見などを聞いて共感したことを話したいと思っております。ほんとにリアルな天草のことなので、どんどん尖がっていただきたいと思っております。この数字を眺めてなかなか難しい、だから全市民にどうしようっていう事もなかなか難しいと思っております。先ほどあった、例えば、市民は市の職員だったりもしますし、社長さんだったりするかもしれない。そこで、社長さん向けにどうするかということ徹底的にやってみよう。それでは、このタイプの方々にはこういう歴史、こういう文化をやってみようみたいなことを次々と取り組んだ方がいいと思っております。行政は「平等」といった感覚で動きにくいと思っておりますが、このタイミングになってきているので、あえてここでとんがってみようとしていただくのはいいのかなと思っております。それをやる担い手が市職員ではおそらく手が回らないかもしれません。とんがればやることが見えてくると思っております。社長さんたちに、ちゃんとそういう勉強会をやらしてもらえないかと。面白そうだと思って、乗って来てもらえれば、その方々に自分たちでやらしてもらってもできたりするわけです。行政はどうしても平等にやろうなんですけど、「この方々」みたいにターゲットを決めていただいて、あえてやっていただくことも面白いかなって思いました。歴史というの、先ほどの産業の歴史みたいなやり方をしたら、こういう人たちはこのような情報が欲しいよねや、こういうことを面白いと思っている人はここにいますなどとなってくると思っております。そういうところの知恵を出して、担い手を色んな方々にお願いしていくこともぜひお願いしたいと思っております。

あと、ぜひ「兆し」をたくさん集めていただきたいです。もう計画期間も終わりになるから数字はできませんでしたが、でもこういう兆しがあることをぜひ堂々と出していただきたいと思っております。それが次の計画に繋がるので。例えば、学生が来てこんなことが始まっています、みつばちラジオは計画がスタートしたときはなかったラジオですが、実はこんなことまで始めましたなど。みつばちラジオは、地元ラジオであり、先ほど委員がおっしゃっていたように、聞くだけで終わるラジオではなく、地元のラジオだからこそ、そこに会いに行きたくなる、買い物にいきたくなるなど、そのようなことを促して働くもあります。これはすぐに数字出てこないかもしれませんが、この傾向をもっと伸ばしていきたい、そういうことを今はたくさん入れるようにして頂きたいです。そういった兆しを集めて、それを加速させていくことを今年度、残りの期間とかを意識していただくと思っております。そうすることで、次の計画の具体案になると思っておりますから、ぜひそういう観点をお願い致します。

(副会長)

「兆し」という部分と「尖がっていく」ということ。私は観光で、天草は一つとい

うことはやれないかなと思っています。もっとというと長崎まで貫くみたいなことで、私は、テレビも悪くはないのですが、ラジオがすごく素敵なのはその見えないことによって想像力がかきたえられることがすごく大事だと思っています。同じように観光も今、自転車大事だと思っています。自分の足でちゃんと動くみたいなところ。上天草では「あまいち」というものに取り組んでいますが、天草は一つとか長崎と繋がっているということに鋭くやっていくことが大事だと思うので、是非そういうパイロット的なことをやっていただければと思います。

(会長)

事務局から最後に何かございますか。

(事務局)

いろんなご意見ありがとうございました。非常に今後のためになるご意見等をいただきまして、本当に良かったです。最後、会長からの兆しということですね、やはり私たちも兆しを感じているところがあるものの、やはり具体的に浮かび上がらせられていないということに改めて気づきとなりました。

最後に副会長がおっしゃっていただいたように、オール天草というところを馬場市長も掲げていらっしゃいます。現在そちらに向けていろいろ取り組みを進めているところ。観光の方としても、今の午前中に道の駅の説明をさせていただいたところですが、今はやはり、新型コロナ禍の中で、マイクロツーリズム化が進んできて、公共交通機関を嫌うということもあり、天草市への訪問先一位が、去年の11月の観光動向調査の結果では、道の駅が1位に上がってきています。認知度が高く、マイカーでの立ち寄りしやすいということが分かっております。そのため、道の駅に引き込もうということで、今戦略を組んでおります。また、上天草市さんにも道の駅が一つありますので、一緒に組むことで、例えば、オーソドックスにスタンプラリーでもやってみると、今は上天草市さんでお客様は止まっているということを中心に言われていますが、そこから引き込むことが可能になるのではないかと考えております。オール天草ということで、今年度チャレンジしてみたいと考えております。今日は本当にありがとうございました。

#### 【地域振興部門】

○事務局より説明

※主に政策11「協働によるまちづくりの推進」について説明

(委員)

ご説明ありがとうございました。コロナ禍でとても達成が難しいところなのかなと思っていたのですが、すぐ改善できると思うところがありました。説明の中で、コミュニティ施設の整備活用の推進の一つ目としてコミュニティセンターの利用申請件数っていうのは、コロナ禍で減ったっていうのもあると思いますが、目標値との乖離がとっても大きい部分です。施設を利用したいと思っていても、私は子育て年代でもあり、平日に窓口に行って申請をしないといけないというのが、とても足を遠のかせている原因になっていると思っています。申請をオンラインでできるとか、平日以外

でも申請できるような体制にするだけで、ここの部分は大きく改善できると思います。

(会長)

DX でなくても、普通に手続きをそうしていただいた方が、お互い負担が減るだろうというご指摘ですが、そのあたり事務局はどうお考えですか。

(事務局)

コミュニティ施設では自主サークル等の活動があります。また、地区振興会の会議やいろいろ地域活動での利用があるため、オンライン予約が入ってしまうと地元との調整を行う必要がでてきます。そのため、地区コミュニティセンターの予約の方は、オンラインへ移行することが難しい状況になっております。検討を進めていかないといけない部分ではあります。

(委員)

平日、私も妻も仕事をしていて動けず、予約には窓口に行き申請書を書いて下さいと言われてます。電話でできないのですかとお尋ねしますが、申請書を書かないとダメですと言われて、結局諦めるというパターンです。オンラインではなくても電話でもいいとか、土日はちょっと対応することが難しいとは思いますが、電話予約を検討していただけるとありがたいです。

(事務局)

土日は原則的、コミュニティセンターには振興会の職員さんがいらっしゃいませんので、対応が出来ないっていうことはご理解いただきたいと思います。一応、仮予約っていう制度の形で、電話で予約することもでき、後ほど正式に申請書を提出させていただきますという対応は行っています。私も以前はコミュニティ主事をしていた時には、玄関に予約用の入れ物があり、入れてくださいとしていたところです。その希望されるコミュニティセンターへご相談いただければと思います。

(会長)

今のご指摘、この施設のためと考えたりすると、こういう状況でなんですけど。実は、いろんな行政で同じことが起こっています。どれだけの手続きがオンラインでないのかということを経点検するってことは、意図的にやらないと普通変えられません。なぜなら、それで対応できているからです。それで利用されている方もいます。ということは、そういった働き方をしないようなスタイルの方は使わないことが普通となってきます。しかし、そうではなくこの総合政策審議会では行政改革の審議会でもあるので、行政改革としてどれだけの手続きがそれこそ窓口まで来なくてはいけないのかやオンラインでできないのか。なぜわざわざ国をあげてDXを推進しているのかというと、結局人々に負担をかけているからです。そういうものはまとめてやらないとできないことなので、この部署だけではなく、この審議会としては、扱うテーマとして、是非そういった手続きがどういう状況なのかを天草市が把握されているのであれば、そういったことを出していきたいです。本当にオンラインにできないのか。今まではこうだったから調整が大変でした。それは今まであって、失うものはありません。逆に得られるものは何なのかを考えたいので、この審議会として決め、答

申していくってことをしないと進まないと思います。そういったことをぜひ今後ご検討いただきたいなと思います。

(事務局)

今のオンライン手続きについてです。DX というお言葉が出ましたが、国の方では、9月にデジタル庁が発足するようになっております。それを受け、それぞれの自治体ではDX 推進計画というものを作るように進められております。本市につきましても今年度中にその計画を作っていくたいと思っています。その中で、委員からありました電子申請ができないかと言ったものにつきましても、幅広く取り入れていこうと考えております。ご提案につきましても当然その中に盛り込んでいきたいと思っています。ただ、今ありましたように、電話ではどうかということになります。いわゆる、電子自治体を待たずにできることもありますので、行革の観点から協議をさせていただければと思います。

(委員)

つくづく思っているのは、現在 51 の地区振興会があるんですけど、やはり組織は会長次第ということ。振興会の会長さんは、熱い思いを持って、皆さん方をうまくまとめ、そして地域づくりに努力されていると思います。しかし、会長次第では情報に対する温度差があります。非常にやる気のある人、情報が詳しい人は、非常に皆さん方がまとまるとし、やっていることも非常に郷土意識が高く、皆さんから笑顔が出るような活動をされています。年に1回でも2回でもいいので、始めと終わりぐらいに、この地区振興会の会長さんを集めた研修会、会議でもいいので、今出されているようなことを直接各地区振興会の会長さんに下ろしていく。そして、それぞれの地区振興会が盛り上がり活性化していく。そうすることで、私はきっと天草全体が活性化するのではないかと思います。

私は倉岳ですが、ある地域でありました。ボランティアの草刈り作業で今までは一声かけたら、だいたい集まって20名前後でした。しかし現在は、嬉しいことに50から60人ぐらい、2倍以上集まります。なぜかと考えると、やはり会長さん自身の人柄とか魅力と、そしてやる気などで皆さんとの信頼関係が出来てきたからだと思います。非常にやっていることに楽しさとやりがい生まれています。皆さん方も会長というお人柄です。そういうことでぜひこう、自立協働ではありませんが、必要な時に行政の方からは支援の手を差し伸べてもらえば、この天草市全体が、非常にこう高まっていくのではないかと思います。

(委員)

今委員がおっしゃられて、ああ、なるほどと思ったのですが、私が住んでいる地区では地域格差をすごく感じていて、参加したい、こういう講座とか学びたいものっていうのは、だいたい本渡にしかなく、仕事終わってからでは絶対間に合わない時間で、子どもを連れて行ける時間帯でもなくなってくるので、今ここで目標とか取り組みで書かれていると思うのですが、地域によって「学べる」「学べない」がすごく、大人は自分で行けるからいいかもしれませんが、子どもたちにとってはすごく不利なことでもあるので、その部分をもう少し考えていただきたいと思います。

あと、課題として、コミュニティ施設の整備っていうところがありますが計画的に  
ですよね。でも、実際雨漏りがあった年に、そのことについて話をしたら、ここはち  
よっと出来ないと言われたので、放置されたままのところだったので、あんまり行き  
たくないと思いました。そういうところも、本渡のように綺麗になっていくとか、そ  
ういう事を求めているわけではないのですけども、最低限、雨漏りがあったらすぐ対  
応していただけたらとか、市民へ今後のことをきちんと発信してもらいたいと思ってい  
ます。

(会長)

お二人の意見に対して、何か事務局からございますか。

(事務局)

振興会の会長さんへの研修につきましては、2年に1回にはなりますが、まちづく  
り協議会の会長さんへの研修を実施しており、そのことを各振興会へ降ろしていただ  
くようにはしているところです。ただ、個別の51地区振興会の会長さんへの全体研  
修というのはありません。今後検討はしていかないといけないと思いました。

また、学びにつきましては、コミュニティセンターによってその学びの場に格差が  
あるのではないかということですが、現在、各地区コミュニティセンターで、実施さ  
れている分につきましては、自分たちで企画された自主サークルの講座の部分だと思  
われます。新たにこういう講座の立ち上げについては、それぞれの支所単位に生涯学  
習を担当している地区公民館の担当者を配置しておりますので、相談していただけれ  
ばと思います。

施設の件については、おそらく今年度大規模改修を予定している施設であり、当然  
雨漏りについては改修をする予定にしております。ただ全部が全部、大規模改修とい  
うのは、長寿命化を図る部分での改修であり、建て替えやそういった部分につきまし  
ては、財産経営課、政策企画課など全庁的なところでの検討した上での対応となり、  
予算も伴うものになりますので、方針については、今後、検討を進められることとな  
っております。

(副会長)

部門超えますが、難しいところかもしれませんが、今、この場で、学びっていう話  
がたくさん出ていますよね。これからの地域振興は次のその教育部門との接続がす  
ごく大事になってくると思います。第3次総合計画ではおそらくそこが焦点になると思  
うところです。地域の学校であるとか、公民館もそうですが、今はコミセンになって  
いると思います。その使い方を、先ほど出ていたまちなか遊園地は、やっぱりすごく  
良く、今までは世代で切っていたじゃないですか。学校は学校、若者は若者っていう  
ふうに。しかし、それは混ぜていく方向に動くと思います。そういうことを、どうや  
って計画的にしていくのかを今後考えていかなければと思うので、ぜひ地域振興のほ  
うでも検討していただければいいなと思っています。

(委員)

公民館長として補足すると、委員がおっしゃったことを公民館担当が各地区のニー  
ズを吸い上げて学びの場をいかに作っていくか。それが公民館のひとつの役割ですか

ら。担当の方にそのことを非常にここで学びたい、しかしこれができない、どうしたらいいかということで、自分の考えと希望を話されるといいと思います。後ほど担当課の課長さんがいらっしゃるので、意見を聞きかれるといいと思います。

(会長)

事務局の方で、色んな説明ができるというのは良さではありますが、ここは審議会の場でもありますので、ここで出たことは、是非すぐにやって頂きたいです。また、こういったことがあるというのは違う目線から見ると、そこは大きな課題ということでもあります。

例えば、この審議会はこの数字上げるためにどうしたらいいかと一緒に考える立場の会議です。そうするとなかなか上がらないことや、逆行しているところに対して、例えば地区ごとの弱いところや、こういった情報に弱い、本渡とそれが全然違うなどの観点が結構重要な指摘だと思います。それに関してご説明で聞いて、確かに我々としては、ああそうかなと思うのですが、そこに課題があるからこそ何するかってことを、是非とも挑戦していただきたいと思います。

先ほど委員からもあったように、実はこういう数字を、例えば区長さんの方々にもどんどん見せていくといいと思います。それをどう考えられるか。区長に限らず、皆さんが責任もってこの数字あげる努力をされるのが、すごく重要です。だからこそ、この数字はどう誰に見せるといいかなと。この成績だったら見せたくなくなったりしますが、そうではなく、一緒に悩んでいただいて考えて頂く方は沢山いるはずですが、誰と共有すればいいかということもぜひ考えていただいき、実はこういう状況で目標期間が来るけど、これに関して皆さんがどういうことにお気づきですかなどを聞かせてもらうことから、一緒に取り組む仲間が出てくると思います。区長さん方へもどんどん共有していただくといいかなと思います。そういう意味でのご指摘だったかなと思います。ぜひその観点ご検討いただければと思います。

(事務局)

伺いましたご意見につきましては各支所のほうにも情報を共有させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

## 【教育部門】

### ○事務局より説明

※主に、政策16「生涯学習の推進」、政策17「人権教育及び人権啓発の推進」について説明

(副会長)

この学校の教育に関しては、もう本当に素晴らしいことだと私は思っていますが、まちづくりの観点から主に県立高校との連携についてご相談したいです。私は、熊本県の高校のあり方検討会に去年度からメンバーに入っており、地方部の普通高校の魅力化が今すごく話題になっており、大事だと言われています。教育部門の方々に、それも教育総務の方にその相談するのはどうかと思いますが、象徴的指標に記載されている、市民が活動の機会に恵まれている事が、筆頭で上がっていること自体は素晴ら

しいと思っています。いかにその学校が、小、中学校もそうですけど、高校と連携して将来の天草を担う人材を育成するかが、すごく大事な項目だと思います。その中でちょっと心配しているのが、その地域活動に参加したことのある市民の割合、コロナで減っているのは仕方がないと思いますが、実は去年コロナの中でもしっかり活動できたのは、私は菊池高校さんの活動だったと思います。学校側は、学びを止めないということで非常に頑張っていたと思います。もちろん中学校も小学校もそうですけど。そういう意味で、2点お願いしたいことがあります。

一つは、行政の方をお願いするのはちょっとどうかと思うのですが、先生の働く環境の確保と言うか、毎年毎年先生の仕事が増えていて、何とかして先生が学びやすい、先生が教えやすい環境をどう整備していくのかについて検討していただきたいという事。

もう一つは、その世代を交えた学びの場の提供っていうのを、社会教育の場所で今日は公民館のプロもおられるので相談したいと思うのですが、そういう混ぜて教育するということがこれから多分、できれば現場がいいと思うのですが学校の中だけではなく、学校の外でいかに学ぶかっていう支援。最近では、地域おこし協力隊が教育の場に、教育委員会におられること結構多いのですが、そのような場を天草市でも検討されるといいと思っています。その2点、ちょっと教えていただけないですか。

(事務局)

全体的な話として、天草市では地域学校協働活動という地域と連携するという部分にここ2、3年取り組んでおり、推進員を各地区、全地区、去年までに推進員を配置することができました。このことによって地域と学校がかなり近まったのではないかと考えております。また、今までは先生たちが地域のいろいろな活動を取り込もうとした時には、誰に聞いていいのかわからなかったのですが、そのようなことへのつなぎ役にもなっていただく方でもあり大きいかなと思っています。

もう一つは、特に倉岳あたりでは、幼保小中高の連携というのを以前から取り組まれており、毎年そのような場を作っていたり、皆さんで活動をされています。また、あまくさ拓心高校では、そういった色々な連携活動がありますので、拓心高校、北小、南小の推進員さん達も入ってお話の場を作っていました。高校側からのアプローチも結構あり徐々にですけど進められていると思っています。

すみません。先程ご意見いただいた、地域学校協働活動推進事業につきまして補足して説明させていただきます。この事業は、平成30年度から取り組みをはじめ、現在は市内の各学校に推進員の配置が全て終わっております。地域の方のご協力も大変あり、ボランティアの方の人材確保につきましても推進員の方が非常に前向きに取り組んでいただいていることで、令和2年度では、人材一覧表まで作成することができました。今後は、この事業の拡充につなげていければということで、限られた予算ですので有効活用をさせて頂いて、学校の先生方の負担軽減にも繋がって参りますし、子どもたちの支援などにも繋げていただければと思っています。

あと、世代を超えていうところ、非常に年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合がとても低いところではありますが、令和2年度から複合施設こころすが供

用開始し、非常に相乗効果は上がっていると感じております。これまでもいろいろな講座を開催いたしました。募集をかけても集まっていたことに大変苦勞をしていたところですが、複合施設として、また、関係課との連携も図れるなど環境が整っているということもあり、すぐに募集定員には満たしているところ。また、公民館講座では、全体講座の中で青少年の育成講座にも令和2年度から取り組みをいたしました。複合施設の中には、不登校の子どもさん達が来られる学級もございます。ほかにも、天草市全体の学校長の方にもご案内し青少年育成講座も活用していただけるような形で対応させていただいておりますので、そこでも学校の先生方の負担軽減にもつながっているのではないかなと思っております。

(副会長)

ありがとうございます。このことはもっと情報発信してもいいのではないのでしょうか。先生方が天草に赴任するのが楽しみだとかですね、そういう風に言っていただけるようになると子ども達に伝わると思います。

私は、上天草にも携わっていて、中学生のうち6割が天草の高校に行かないと聞いた時に、すごいショックでした。やはり、高校までは地元にてほしいなと思っております。大学で一度出るのは、私はどっちかというプラスになるのではないかと思っています。帰ってくるができる天草を作るというのは、小中学校が勝負だと思いません。ぜひ高校も含めて、先ほど倉岳の話が出ましたけれども、大人が本気でやっていることをもっと大人の口から出るようになるといいし、もっと情報発信を頑張ってもらえると、皆さんがそれ誇れるようになるのが、シビックプライドの涵養で一番大事だと思うので、ぜひ頑張ってもらえればと思います。

(委員)

嬉しいことに、倉岳が何回も出まして、ありがたいと思います。

今後、教育の方へお願いしたいのは、副会長から話があったように、子ども、あるいは地域は、人材育成を若者にも任せないといけないということです。生活の継承とか、文化の継承とか。そういった伝統の継承はいっぱいあるのですが、大人が本気になって一つのテーブルで、定期的に話をする場、場作りが一番ではないかなと思いません。倉岳のことを紹介しますと、18年間で子どもを見とることということです。幼稚園、保育園から高校まで表を作っています。それはあくまでも表ですが、一番大事なことは大人の意識だと思えます。そういった意識作りとその場作りがこの天草市内全体、また各地域で、もし本気になって取り組んでいただければ、私は天草が日本一の地域になって、将来は天草市内の小中学校、高校に通わせたい、この天草に移り住みたい、そういった声全国から上がってくると思っています。また、そういった天草市であってほしいと。もう絶対にそうしないといけません。

(委員)

令和3年度以降の取り組みの中で、幅広い年齢層を対象とした学習機会を設けていくなど先ほど副会長のお話の中で、混ぜて教育をするっていう話がありましたが、それとは逆行する意見になりますが、年代に応じた学習の機会があると感じる市民の割合ってところが37.3%で、まあ10%ほど目標値からの乖離がある状況なので、こ

こを単純に高めようと思ったら、10代の人達はどれぐらい学習の機会があるって感じているかを見て、単純に低いところの学習機会を増やしたらいいのではと思いました。そういう分析がなされてなかったら、切り口の一つとしてのご提案でした。

(会長)

年代も一つですし、地域ごともあるでしょうけれども、そういった分析を用意されているか、ないしはそこから見ると、こういう課題があるのかななどご説明いただけますか。

(事務局)

昨年度、複合施設ここらすが集約化されるまでは、勤労青少年ホームというのがございましたので、そこは年齢制限がございました。しかし、集約化されたことで、広い年齢層の方に来ていただくというところで、現在は、講座は中央生涯学習センターとして行なっております。公民館講座も行なっておりますが、こちらは年齢層が高い方が多いところです。中央生涯学習センターでの講座は、男女問わず、高齢の方から高校生の方もご参加いただくような講座にもなっています。

また、ご自宅が中央まで遠いというところで、行きたいと思っても行けないという部分につきましては、少しずつですが、地域振興部の男女共同参画センターの講座とコラボしながら、託児と講座を連携した講座にも取り組みを令和2年度から開始をいたしております。ペン習字講座を開催した時は、高校生の参加が多くありました。

(会長)

委員の指摘を、私なりにさらに加えると、市民アンケートを年代ごとに、いわばクロス分析して、クロス集計してみてくださいということです。年代の回答もありますし、地区や子育て中の回答もあります。いろんな属性が把握できていますから、こういう属性から、実はこういった学習の機会がある事を数字ではあまり答えがよい傾向でないみたいなのを分析されたことがありますという質問です。今後このような分析して、すぐ課題を出しますということをお願いいただいてもいいと思うのですがそのあたりいかがですか。

(事務局)

申し訳ありません。年代別の分析等を行えていない状況です。ニーズの把握をさせていただくような形で取り組みをさせて頂いているので、今後、課題として取り組んで参りたいと思います。ありがとうございます。

(会長)

そこはすぐやってください。この目指す目標値46.2%が、このままじゃどう見てもできないという時の対策を今出来たかどうか重要です。出来ない、出来ませんでしたという報告は、審議会としては困るので、だからこそ今こういう年代ごとに分析しました、先ほどありましたけど、地区によってはすごく弱いところありましたとか。だからこそ、まずはこのようなことからやってみましたなど、メリハリをつけてやってみたってことを説明できれば、この数字ができなかったとしても、まだベターです。すぐに分析していただいて、そういったことをこの審議会では本来聞きたい事でもあります。ぜひそこはお願いできればと思います。

ぜひ分析した結果は別途データとして委員会あてに何か書類等報告を頂くこととし、教育部門の時間は以上とさせていただきます。

【保健・医療・福祉部門】

○事務局より説明

※主に政策25「障がい者の社会参加の推進」について説明

(委員)

私も今9年ほど、医療介護福祉の事業を天草市内で運営をしており、9年の中ですべてもやりやすくなってきているというか、支援がしやすくなっている環境にどんどん変わっていったというの、実感としてあります。ありがとうございます。

2点ありますが、先ほどの障害者の社会参加ができていうところの資料の中で、目標値としては42.9%だけど、24%と大きく乖離があるところがあります。そもそもアンケートの中身の取り方がどうなのかなと感じている部分です。障がい者の当事者はこのアンケートの中には入っていないということです。なので、当事者は十分満足していると感じているかもしれないけども、当事者ではない人達が見てみて、障がい者の人達がかわいそうみたいな感じでのアンケート結果になっているのであれば、そもそも指標としてが、当事者が置き去りにされているのであれば、指標をちょっと見直すことも必要ではなのかなと思いました。

もう一つ、象徴的指標の中で、地域で支え合う環境ができていうところ、ここも10%ほど目標値との乖離があるところ。高齢者の方々で要介護状態になる前の方々への市としての支援体制が総合事業の中で行われていると思いますが、総合事業として、介護、要介護状態になる前に予防しようという事業があります。その事業を私の会社で請け負っているのですが、今は会社として周知はしないでくれって言われています。そういう制度があること自体が、全然知られていないような現状ですけど、予算の範囲内などがあると思いますが、周知活動に動かないでほしいと言われていて動けない現状です。地域の中にどういう制度があって、対象となる方々が受けたいと思った時に受けられるような環境下に今はない所があるので、介護予防をしたいと思っている高齢者の方々がつながる場が制限されていると感じるところもあります。結果、ここの10%の乖離を生んでいるのではないかとと思うので、その周知活動を、行政だけでやるのではなくて、民間のほうにも任せて欲しいというところが一点。これは事業者としての意見ですが。

(委員)

障がい者・児を支えあう地域づくりの推進の令和2年度での取り組みの中に、関係機関で39回1,741人に対して普及啓発を実施したとあるのですが、この対象の人達というのは、子どもたちではなくその職員の方たちなのか。また、普及啓発というのはどういう内容を行われたのか。簡単にご説明をお願いします。この普及啓発が、私もちょっとわからなかった。もしこういうのが分かれば、市民団体とかにも啓発活動を行ってくださるのかなとも思いました。

あと、その目標を目指した令和3年度以降の取り組みについても、よければこうい

う内容や発展を考えているなど教えてほしいです。

(会長)

今ご指摘いただいた点に関しまして、さらにこういうことを取り組むことで、この指標はうまくいくと仮定しているなど説明を加えていただければと思います。

(事務局)

まず、象徴的指標の部分、障がい者の分と地域を支え合う活動の部分での象徴的指標の捉え方でのご質問ですが、現在、市政アンケートにつきましては無作為に抽出をした市民の方から、市の方の政策、施策を進めている上で、どのように感じられているかという質問をさせて頂いており、障がい者施策については、障害者がこう生き生きと生活されている、状態に応じた生活を生き生きとされている、また、地域に頼れる人がいるのかというような、該当がある人もいない人も、当然抽出ですので、対象になってここに数値として上がっています。

ご指摘があったことについては、実際、障がい者の方がサービスを利用され満足されたのか、というようなことになりますので、もし数値として拾うならば、成果指標となっている実際サービスを利用された方にアンケートを行い、どのくらい満足されているかというような結果を取る必要があると思いますので、今後、成果指標の中で取り入れるかどうかということで、検討させていただきたいと思います。

(委員)

障がい者が地域社会で生き生きと生活していると感じるかではなく、自分がもし障がい者になったら、この地域でいきいきと生活できるか、という質問のやり方だと、その人の主観で答えられると思います、現在は、障がい者を見て、いきいきと生活をしていかと思いますかという質問の仕方になっていたので、違和感があると思いました。そういう点で検討して頂ければありがたいです。

(事務局)

今のご意見については、確かに自分がもし障がい者になった場合というようなことで、自分に置き換えて回答していただくという部分は、確かにわかりやすく、回答もしやすくなると思いますので、このことにつきましては、次の3次総合計画を策定していきますが、当然市政アンケート等で、指標をとってまいりますので、このはかり方、見直しを検討させていただきたいと思います。

また、先ほどの個別の部分につきましては、それぞれ担当課長から説明させていただきます。

周知関係につきましては、39回1,741人に対してどのように普及をしたかというところですが、主なものにつきましては、健康福祉ガイドブックを使った講話など、民生委員さんや各民児協に出向きましての説明となっております。また、学校、保育所等におきまして、児童の発達管理に関しまして、こうしてほしいというような要望があった時に出向いて講話をしているところがございます。ご要望がございましたら、講話をすることは可能でございますので、是非皆様方からも周知よろしく願いたいと思います。

介護予防に関することにつきまして、総合事業の方であまり宣伝しないでほしいと

のお話でしたが、私も把握しておりません。申し訳ございません。本市におきましては、介護、要介護にならないためのその前段の予防対策としまして、通いの場につきまして積極的に推進をしております。通いの場には平成 27 年度から取り組みを始め、順次参加団体の方も増えており、この通いの場が色々な介護予防をはじめ、その助け合いの活動などにも繋がっているということで、全国的にも評価を頂きまして、表彰を頂いたところでございます。

今後は、通いの場の設置のないところや少ない所に普及を進めてまいります、徐々にマンネリ化していくような傾向がございますので、専門職を入れて、しっかりとした介護予防活動につなげ、特に介護度が上昇すると、認知度の悪化に一番つながりますので、課題として取り押さえております。本年度は通所型のサービスで比較的軽度の方々には、認知症に特に予防していただくということで、そういった取り組みを、サービスに従事される方に研修も実際行っているところで、充実からさらにそういった認知症予防にも繋がるようなサービス、通所サービスへの展開をしていきたいというところで考えております。

(委員)

総合事業の通所型サービスのCという事業は、全然足りない状況です。受たい人たちが仮に旧本渡市内で要支援の方々が 2,000 人ぐらい以前はいらっしやったのですが、今その通所型サービスCというサービスを受けられている方は、年間としても 1,000 人にも満たないです。必要な人に届いてないので、通所型サービスCというサービスがありますと積極的に発信をしたいということを民間の業者として発信をしたいということです。しかし、包括支援センターの方で行うので、やめてくださいと言われております。その利用したい方に届いてないことが課題だと感じているのですが、今それをしてしまうと、もう予算が足りないとか、色々なことがあるとは思いますが、その発信していいのか悪いのかをもう一度検討していただきたいと思いません。

(事務局)

すみません。私も詳しく担当のほうに確認をしまして、トータルでいけば、介護度、要介護の認定を受けられて、介護給付費が伸びるのであれば、未然に介護予防が図られれば、ご本人さんも当然幸せな生活が送れますし、市の保険者としてしましても余分な給付を抑えられることということ、お互いが win-win の関係にもなりますので、検討させていただきたいと思いません。

(委員)

障がい者の社会参画ができていうところの施策にないのですが、障がい者の雇用というところのことは、市の方では検討されているのでしょうか。実際、障がいでも、身体、知的、精神で状況も全く違いますし、重度から軽度まで色々あって、障がい者雇用の人数の多い事業所では、決まった率もあります。その中で、実際仕事につけている方で、身体障がいの方は率が高いと思いますが、精神や知的の障がいがある方というのは結局、入っては辞め、入っては辞めを繰り返して、安定して職に就くことができない状況にあります。社会参加につきましては、今後増えていくと

予測されていますので、何か検討されているのでしょうか。

(事務局)

障がい者の雇用につきましては、令和3年度以降の取り組みの中では、現在、障害者就業生活支援センターとハローワークとの協議の場として自立支援協議会がごさいます。この協議会でも障がい者の雇用に関しての部会を設け、検討をはじめております。先ほど言われました通り、精神、知的の方に関しましては、一般就労は厳しいと思っておりますけれども、就労に関しましては、就労型のサービスということで、A型B型というのがございますので、こちらのほうに、シフトできないかと。中には知的であっても一般就労が可能な方もいらっしゃると思いますので、訓練等も併せ一般就労につなげるということの検討を自立支援協議会で今後行ってまいりたいと思っております。

(会長)

今日の会議の意味は、令和4年の目標達成が出来るかどうかという観点で、駄目だという意味で言っていない。なぜ、このことを今指摘したかと言いますと、この象徴的指標、環境指標という言い方をするものでありますけれども、例えば11番12番のあたりはちょっと厳しいというところ。平行移動となっていることから。ですからこのままじゃ無理ですというところに対して、どう対応されるのかが今重要なポイントです。しかし、こういう状況だってことは皆さんよく理解されていますし、いろいろなご指摘を頂けると思いますが、今、これから何をやるのかなんです。今日の指摘というのは、別段知識が欲しいとか、そういう情報提供ということだけではなく、委員の皆さんがこの天草市で活動されていて、気づかれている実感をお話していただいているのです。そこからヒントを得ていただいて、すぐにやっていただきたいのです。なぜなら、令和4年度は実質的には今年、来年までです。今年何したかが大きく影響していきます。新しい委員になったことで、大きなヒントを得られるところ。例えば、周知活動を事業者が行えるようにすることで、何か良い兆しが出てくのではないのでしょうか。委員が決して自分のところでやりたいと言っているわけじゃなくて、そういうところにお気づきヒントがあるから、そこに対してできればすぐやりませんか、ということです。今の就労支援のこと、確かに、ご指摘の通り、A型、B型の就労型のサービス、就労支援センターがあると思います。ただそこに関して情報が足りないのではないのかという指摘だと思います。そういうことは、もっと改善できる余地はないのでしょうかということです。この審議会としても、この状況を決して聞いて理解しただけじゃなくて、こうしたいああしたいと一緒に考えたうえでこうだったということを審議会として来年度まとめないといけません。今日の指摘を踏まえて、何をされたかったを今後確認することになりますので、是非、今日の指摘からこんなこと考え、やってみたらこうだった、というようなことをぜひご報告できるように用意しておいていただきたいと思っております。その際、できるだけ分析を深くやっていただきたいと思っております。別に障がい者の方のいろんな領域を整理することだけじゃなくて、例えば、このタイプの方が厳しいため、色んな事をもう少し踏み込んで分析し、ここに関してはやってみる、ここに関してはやってみたらうまく改善で

きましたから全体としてこういう状況となる、ここを課題と思ったところに対してアプローチしたことはうまくいったといえるものを増やしていくと、結果的に全体が良くなるかもしれません。少なくともそこが上手く行き始めたことを我々も確認ができます。

審議会では情報提供を求めますから、このことに関して回答いただき、そこから改善をぜひ見つけ挑戦をしてみよう、その結果こうだった、その時の声を分析し、指標が違うほうがいいということも今日の途中でありましたので。指標をこうとったほうがいいということも出てきましたので、しっかり確認していただき、来年度はもっと厳しい事なきやいけない、あのいわば最終年度ですから。そこに向けてぜひ試行錯誤していただければいいかなと思います。

#### 【生活環境・防犯防災部門】

##### ○事務局より説明

※主に政策28「快適な生活環境の保全と向上」、政策29「災害に強いまちの形成」について説明

(委員)

色々な取り組みのおかげで、とても充実した生活につながっているというのを再認識できました。ありがとうございます。

一点、お尋ねします。自然を守り資源の循環が図られているところで、ゴミの総排出量は25,000トンから20,000トンにゴミを減らす、20%減らすっていうので、どうみても無理だろと思ったところです。改善のための切り口として、思いついたことは、まず1年間で5,000トン減らすことができた各自治体などの事例があれば、それを引っ張って、パクることもいいのかなと思いました。また、そのゴミを減らすための取り組みとして、資源物の分別指導とか資源物回収活動団体への報奨金やゴミ出しカレンダーの配布とか取り組みがいくつかありますが、去年から今年にかけて300トン程度が減らせているので、どの要因で300トン減ったのかを分析し、単純に資源物の分別指導によって300トンできたのであれば、それを2,500トンまで同じ活動を拡大するとか。過去の平成28年から平成29年にかけては1,500トンも減っていますよね。この時に取り組んだことを調べて、また応用することもいいのではないと思いました。

(事務局)

一番目にありました、他の自治体などで5,000トン減った事例につきましては確認させていただきたいと思います。また、何が要因として減らせているかにつきましても過去の事例を確認させていただきたいと思います。

また、確認しているもので生ゴミの減量についてあります。本市では、生ゴミの処理容器の補助を行っています。生ゴミを処理、乾燥させることでかなりの量が減らせるということを把握しておりますので、生ごみ処理について普及することも量を減らす一つの方法と考えております。また、事業系のゴミですが、令和元年度に確認の検査をさせていただきました。その中で、やはりゴミ処理場に持ち込まれたゴミの中に

紙等の資源になるものが多く含まれていましたので、検査を実施することで、指導につなげ資源になるものを減らすということも進めていきたいと考えております。

(委員)

市内一斉避難訓練。これはとてもいい取り組みだと思います。やはり、いろいろな説明を聞いた後に避難訓練に参加されると意識が高まって、見えない危険が見えてくるのではないかと考えています。ぜひ、毎年定例化していただき、ある時は洪水、ある時は地震、その時々災害の種類に応じた機動的な避難計画ができるように取り組んでいただければと思います。

また、簡単な思いつきですけども、私個人的には、将来的には去年の人吉球磨の線状降水帯のような集中豪雨が何時どこかで起きるかもしれません。地域ぐるみの防災活動推進と、次のその支援体制の充実に関係しますが、実績値 44.7%に対して目標値が 55.2 です。財政的な課題もあると思いますが、今人口が 8 万弱ぐらいの天草市にあって、気象予報士などの確にデータ指示を送れるような専門職を配置できないのでしょうか。熊本県内でも気象予報士を配置しているところはおそらくないと思います。しかし、今後、自然災害が非常に高度化して、集中的に起きてくると、情報が足り得ることができないかもしれません。その時に専門の資格を持った気象予報士の人がいらっしやれば非常にこう心強いと思います。いろいろな課題もありますので、個人的な意見として聞いていただければと思います。今後、災害がひどくなってきて、洪水関係や地震関係など種類もありますので、もし不可能であれば、現在いらっしやる関係機関の方に資格を取得させるような取り組みも必要じゃないか思います。ご検討をお願いしたいと思います。

(委員)

先ほどのゴミの総排出量のところでゴミの排出量をトンで表されて、少しずつ減ってはいるものの、人口も減っているの、その割合から行くとどのくらい減っているのでしょうか。例えば、人口で割った方が本当に減っているのか増えているのかわかると思いましたので、提案させていただきます。

(会長)

二人の委員からのお話に関して何か事務局からございますか。

(事務局)

まず一点、一斉避難訓練のことでございますが、平成 26 年までは展示型の防災訓練という形でしておりましたが、平成 27 年から今のように市内全域の市民の方を対象にした一斉避難訓練の形に変えました。実行性のあるものに変更したということです。委員ご指摘のとおり、参加し、避難行動を実際にとってもいただくことが各自で避難のスイッチをそれぞれが持っていただくって意識づけとなっていると思います。避難の生活習慣化という避難行動、そういったものを推進するために継続していきたいと思います。また、洪水や土砂災害、地震などいろんなものを想定し、それぞれの地区によって毎年度変更していただくような取り組みも行なっていきたいと思っております。

気象予報士の配置につきましては、理想としてはそのような方向も好ましいところ

ですが、現在は、熊本地方気象台と常に連携をとっております。なお、地方気象台には、各エリアにあなたの地域の予報官として天草担当の方から気象情報の入手を常に行い、避難指示などにつなげております。

(会長)

すいません、追加の情報を添えて頂きたいのではなくて、令和4年度の目標ができるかどうか最大の課題です。それに向けて、お気づきの通りずっと平行移動しているわけです。今これをやっていますというご説明を丁寧にしていただくことで、限られた時間を使うのは、ちょっとどういう意識なのか、すごく逆に疑問に思うことです。我々がこう次から次に決してアイデアを言いたいのではなく、どうしたら抜本的改善できるかを考えてください。これまで通りでは無理です。失礼ながら、私の理解、今日ご説明聞いた感じだと、これまで通りのことをしっかりやりますってことに聞こえてしまいます。そうではなく、どこを抜本的に見直し行うなどご説明をお願いします。そのような象徴的なことを今ご指摘しているのですけども、今日はもう無理なところもあると思いますけども、例えば、「こういった象徴的なことやるから、ここは何とかこの意味ではうまくいくのではないか」など、メリハリを利かせてぜひご説明をお願いします。今ご質問があったことでなくても構わないので、このことを象徴的にやりますってことをご説明頂けませんか。

(事務局)

まず1つに、天草市総合防災マップの更新を行い、全世帯に配布いたします。

次に、マイタイムラインです。個人個人の防災行動計画を立てていただくという取り組みを普及促進してまいります。

最後に、地区単位での防災計画を作成します。地区防災計画ですが、今年度モデル地区で作成していただき、来年度以降に他の地区に普及していくこととしております。これが新たな取り組みになっております。

(事務局)

先ほどゴミの一人当たりのお話をいただき、平成26年度では一人一日約905グラムありましたが、令和2年度は890グラム程度ということですね、若干は減っている状況です。平成29年度からは横ばい状況となっています。家庭のゴミは若干減っておりますが、事業系が増えていると分析しておりますので、このことを踏まえ、今年度から事業系のゴミを減らすということに取り組みを進めているところです。

(会長)

ゴミに関しましても、抜本的に何を行うというところがないと、この審議会としては、何だったのかとなってしまいますので、メリハリ利かせて、これをやることで少なくともここまで行けますみたいなことを具体的に示していただきたいなと思います。

この限られた2年間の中で、グッと上げるために何を行うかをお考えですよねとの質問でした。そのような観点が、今日は情報提供して帰られると困りますので、この指標をなんとかここまでもっていくということを事項的にでも構いませんからお願いします。

(事務局)

ゴミを減らすということにつきましては、先ほどもちょっと話をさせていただきましたけども、生ごみを減らすことでゴミを減らす効果がありますので、ゴミ処理容器の普及についてこれまで以上に取り組んでいきたいと考えております。ゴミの量が一人あたり約 20%減らせるということが出ておりますので取り組んでいきたいと考えております。あと、先ほども申しましたように、事業系のゴミを資源と分別することでかなりの量が減らせると見込んでおりますので、特に取り組んでいきたいということで考えております。

【都市基盤整備部門】

○事務局より説明

※主に政策35「上水道の整備」について説明

(会長)

都市基盤整備部門の指標に関しまして、環境指標としてはなかなか難しい状況で平行移動している側面がありますが、下がっている指標はない状況です。ですが、いくつかの課題を出してくことで、平行移動のどこなんとか上げていきたいとかがことはご説明を頂いたのかなとは思いますが。

委員の皆様からご指摘ご意見等いただければと思います。

(会長)

17の象徴的指標が横ばいだっているところがあり、残り2年、厳密にいうと今年度何を行ったかが結構影響すると思っております。何をするとグッと上がるというお考えはないですか。いろんな要素が複合的になっているので、なかなか変わりにくい指標だと思っておりますが、例えば、こういうところへのアプローチを意図的に行ってみたい。このことで、この指標がグッと上がるかどうか。難しいかもしれませんが、この世代の方に働きかけるから、この世代についてはこの指標が上がると思っているなど。具体的なねらいをいくつか聞きたいなと思っております。それぞれに関して、毎年みたいな話になってしまいますけども、水平に移動し続けているというところに関して、ここはなんとかうまくやりたいなど改善の意味も含めてですけども。そういった具体的なねらいをもう少しお聞きしたいと思っております。

それが次の第3次の総合計画策定に繋がっていくことにもなりますので、ここに関しては意識的にやる、みたいなのところもお話いただければと思います。

(事務局)

昨年度よりも下がっております有収率の向上などの改善に向けて行っていきたいと思っております。また、住環境の整備では、公営住宅等の更新、更新機能等について改善して参りたいと思っております。

(会長)

ではそういったところに関して、あがったかどうか是非来年はまたフォローアップしたいなと思っておりますので、意図的に動いていただければと思います。もちろん、今日パッとこの時間で、限られた中でのご回答と思っておりますので、こういったところも

あれば是非追加で、このあたりを意図的にやってくと示していただければと思います。ぜひ、令和4年の目標というのとはできなかつただけではなくて、ここに対して意図的にやってみたから、ここに関していい傾向があるということを示せるようなことを、来年度に向けて準備していただければと思います。

【総務・企画部門】

○事務局より説明

※主に政策4-1「行政サービスの質の向上」、政策4-3「行政経営システムの改善」を説明

(会長)

いったん5時になってしまいましたので、もし何かありましたらご退席頂いても構いません。いつも最後の議題は、こうになってしまうのも大変申し訳ないので、行革に関しましては、また改めて時間をしっかりとりたいと思います。今日の段階では行革では何を検討したいか、次に向けてこの審議会としては、総合計画の一部にしていますが、行政経営改革大綱のあり方とか、行革って何をそもそもやるのか、そういったことを議論するのもこの審議会ですので、次回以降改めてお時間をいただきたいなと思います。

指標のこと、ないしアクションプランの事に関しまして、懸念事項をさらに、メリハリつけてお話しいただきましたので、その中でも気になる点、こういったことを意識されたかなどお願いしたいと思います。

まずは、委員皆様のご意見を伺いたいと思います。

(委員)

今後の取り組みの中で、各種証明書のコンビニ化がありますが、コンビニでできるということはとてもいいことだと思います。時間外に証明書が取れるということがすごくいいことだと思います。仕事をしている方にとっては、時間を作って市役所に来るというのは大変難しいことです。もっといろいろな証明書が取れるような仕組みをどんどん進めていっていただきたいと思っています。そうすることで、先ほども話がありましたが、業務の効率化っていうのが図られ、人員の削減、また経費の削減にもつながっていくのではないかと思います。とても良いことだと思っていますので、どんどんどんどんハイテク化を使いながら、進めて行ってもらいたいと思っています。よろしくをお願いします。

(委員)

この行政経営改革大綱関係、アクションプラン、本当にご苦労があったと思います。今日、初めてこのアクションプランを拝見して、市民にこれをいかにして周知するかがやはり難しいところと個人的に思いました。今後、求められることは、丁寧な天草市民への説明ではないでしょうか。この中で市民におろしていい内容と、まだはっきりわからない内容とたくさんあると思いますので、事務局の方で精査されて、市政だよりの特集号や特別版を作っていただくなど。そして、ぜひ、市民に分かりやすいような形で周知活動をお願いしたいと思います。

委員になって初めてですけどね、そもそもこの天草市行政改革大綱、改革ですね、その目指すものですよね。そんなことだからこういった改革するという原点をいつも示してもらいたいと思います。こういったことが課題としてあるので、このことに取り組みますと。

また、先ほど委員から指摘があったように、とにかく国のほうが遅れているデジタル化ですね。やっと9月から本腰になるとは思いますけども、天草市も取り組んでいかれるということですから、一応私たち高齢者、なかなかもう取り残されて、IT化はなかなか難しいところですけども、そのあたりも温度差がないような周知の仕方を考えていただければ、より安心して暮らせる天草市になるとそう思います。原点を大事にしてほしいということと、あと、周知の仕方を検討してほしい。その二点を申し上げました。

(委員)

二点あります。

デジタル化していただくのは本当にすごくありがたいことです。あとは、それプラス法人関係ですね。法務局とか。法人カード持って、牛深から1時間ぐらいかけて行き、3分でできるような感じだと、市の各支所などでもカードを使って簡単に取れるようなことができるのではないかと思います。

あと、総合計画の目標値を達成している成果指標の割合の目標値は100だとは思いますが、前年度は16.7ですね。私たちが銀行に提示する時は、経営計画を立てて、それがどういうスパンで長期的、短期的に何を解決していくかをどんどん話をしながら、色んな事を相談していきませんが、多分私が銀行にこのような数字を提示したら、課題じゃないだろうと多分言われます。できないことを過剰に見せては、銀行は貸してくれません。達成できることとできないことと、なぜできるか、できてないのかというのを、長期的な部分と短期的なところでどんどん修正して、上げ下げして行って右肩上がりになっていかないといけないと思います。目標を高く持つことはすごくいいとは思いますが、なかなか達成していかないと、市民の関心や、満足度というのは、天草市がそのような政策を持っていろいろされているから達成する。やっぱりすごいというふうに、どんどん関心の方ができ、その伝え方もあると思いますが、その伝え方がどんどん変わってくると思います。一企業としては、このように普段は考えていますから、いかがかなと思いました。

(会長)

私も少し加えさせていただいて、事務局からお話いただければと思います。

デジタル化のことがありました。「デジタル化計画を作ります」という話になると、やりましようって話が見えてくるのですが、ぜひ総論だけではなく、集中的な点検をして頂きたいと思います。先ほど、予約サービスの話も、例えば予約サービスがどれだけあり、どのような状況にあるかを把握したうえで計画していただきたいと思います。もちろんされるのであればいいのですが、そういう課題になってくると思っています。なぜかという、市民の時間を使うということは、お金の事以上に実は時間を使うということは結構大変なことをお願いしているということです。ここに来な

いといけない、ここでは使えないってことは、そこへ行かないと使えなかつたりするわけですから。市民の時間を使っているってことは罪とはいいいにくいですが、課題があるということです。市民へどれだけ負担をかけているのかを点検することで、それに対してDXするとこのようなことで市民の負担がなくなるのならいいのですが、デジタル化だけが目的となってしまうと、あれもこれもしましよとなってしまう、結局負担が増えてしまって意味がないと思います。総論ではなくて、なんらかの要素を集中的にちゃんと点検して頂いて、例えば市民の時間どれだけ使っているのかみたいな観点で点検していただくのがまず必要と思います。

今日のこの総論的な話として、具体論ではないかもしれませんが、もう一個だけあるのですが、今日説明無かったのですが、かなり気になっているのが、この働きがいがあると感じる職員の割合です。成果指標となっています。ここの項目を見てみると、働き方改革に関して、「働きやすいこと」と「働き甲斐」は別のテーマです。「働きやすい」は、例えば、いつでもいろんな負担がなく働けるなどの働きやすさですが、「働き甲斐」は、皆さんのモチベーションとかエンゲージメントという言葉もありますが、ここで成長できると思えるなどそういったことにとっても影響するものです。市職員の働き甲斐が上がってないということは、いろんな意味で負担が高い時期が続くこともあるかもしれませんが、結構クリティカルな課題だと思っています。

「働き甲斐」のことは、個別に深掘りしていただきたいと思います。集中改革すべきテーマだと思います。ここが上がらないと、結局全体の事に影響すると思いますので。「働き甲斐」に関しては、かなりの課題ですし、馬場市長もおそらく一番気にされているところかなと思いましたので。是非ここは集中的に方針を出して頂きたいと思います。審議会としても扱っていききたいテーマとしていきたいと思います。

事務局からのご意見等いただければと思います。お願いします。

(事務局)

まず、アクションプラン、大綱を市民の方に伝えて欲しいということでございます。検討させていただきます。このアクションプランというのは、行政用語が非常にありまして、難しいところもあると思います。ただ、行革大綱につきましても、やはり私たちだけでは当然できません。市民の方々にもご協力いただくこと、ちょっと不便になることもあります。周知していただくとも必要でございますので、何らかの形でこのように取り組んでいくということをお知らせしていきたいと思います。

あと、原点ですね。なぜ行革するのかっていうところでございますけども、今からは人口も減ってきますが、当然私たち職員数も減ってまいります。財政的にも厳しくなってきます。その中で、市民の皆さんがどういう、本当にこう心豊かに暮らせるのかと、安心して暮らせるのかというまちづくりをしていかなければならないということで、まずは財源的なものにつきましては、絞れるところを絞る。また、有効にお金を利活用していくということがやはり当然して行わないといけないということ。あとは、先ほどDXの話でありましたが、いわゆる市民サービスをどれだけお金をかけずに、かけるとこはかけていきますが、向上させていくかということも行革の視点として取り組んでいく必要があると考えています。先ほどからありましたとおり、申請

書をわざわざ届けに行くということ。デジタル化を含め、そのような形の中で行って行くということ。いわゆる行政の先ほど DX とありましたけどもデジタル化においてもこの行革大綱の中に当然入ってきますので、ここも含めて説明する機会があればと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

達成できているという実績値が非常に低いけど目標値は高いというところですが、確かにご指摘の通りです。当初の設定がどうだったのかというところも十分議論されるべきであると思ひています。いわゆる高い目標を掲げて、それ出来なかった。出来ないのであれば、下げるべきであると。達成することを待って、今度は上げていくべきであるということではすね、これは会長の方から以前から随時言われてきておりますが、なかなかそのままの数値となっているところが反省すべき点と考えております。今後の目標設定の仕方につきましても、考えているところではすね。例えば、先ほど委員の方から障がい者のところで意見がありました。果たしてそういった設問、質問の設定が的確だったのかというところも含め、見直していく必要があると考えております。第3次総合計画では、本当に市民に分かりやすい指標を設定し、市民も一緒に頑張ろうというような目標設定、指標の設定としていくことを考えております。この指標の設定は、単なる設定するだけではなく、当然、遂行する、達成するべきものということではすね。肝に銘じて、新たに設定の時に考えて設定をしていきたいと考えております。これから色々ご意見をいただければと思ひております。よろしくお願ひいたします。

デジタル化につきましては、今年度には DX 推進計画を作成しますが、デジタル化、DX っていう大きなものの原点は、いわゆる業務効率というものと、市民サービスを向上させること、そのために、デジタル化をどう使うかということで考えています。IT 化、ICT 化することが目的ではなく、今の業務を IT 化によってどれだけ改善できるかということがこの DX の推進となりますので、市民の負担をどれだけ減らせるかということも含め、当然この DX 化にかかってきますので、十分検討しながら進めていきたいというふうには考えております。

最後に、職員の働き甲斐が上がってこないというところにご指摘がありました。私達もそこが一番気になっているところではすね。なぜ上がらないのかというところではすね。今現在、人事評価ということで、一年間の目標を立てて、職員それぞれ頑張ってもらっています。期首の設定時、期中にも面談をし、また期末でも面談をしながら、それぞれ職員のモチベーションを上げるような取り組みを行っておりますが、なかなかこの働き甲斐があると感じる職員の割合が上がってこないところに、私達も心配をしているところではすね。この行政の仕事に魅力がないとも取られますので、今後、人事研修またはその適材適所というところもありますけど、そういったところも含め、進めていく必要があると考えているところではすね。これは担当課の総務課の方で、深掘りさせていただき、どういうことになっているのかも含め、検証させていただければと思ひております。よろしくお願ひいたします。

(会長)

働き甲斐の話は、制度や面談とは違う部分もあると思ひています。そこはもう少し、

働き甲斐の研究、研究というと大げさですけども、企業が行われているところがありますので、そこをしっかりと見ていただくのが必要とは思いますが。また、勉強会もあると思いますので、是非そういったことも計画していただければと思います。

最後になりますが、行革の話は全ての根幹になりますので、大変恐縮ですが、いつもこの最後で時間がないとなってしまいます。次回、改めて時間を取りながら、委員の皆さんにも勉強会については失礼ですが、こういったことを実は考えていただきたいということや、目線を広げる意味でも時間をいただきたいと思っています。

その他 （なし）

以上